

もくじ

もくじ	1
はじめに	5

1 章 本体の機能

11

1 パソコンでテレビを見る	12
① TV チューナの使用にあたって	13
② ケーブルの接続	14
③ ゴーストリダクション機能	15
④ 「WinDVR」を使う	16
2 フロントオペレーションパネル	19
3 QosmioUI	23
① 基本操作	23
② テレビを見る	25
③ ビデオを観る	26
④ 音楽を聞く	27
⑤ 写真を見る	28
⑥ サンプルビデオを表示する	28
⑦ タイマーを設定する	29
⑧ QosmioUI の設定を変更する	30
4 QosmioPlayer	32
① QosmioPlayer とは	32
② QosmioPlayer の操作一覧	33
③ QosmioPlayer (TV)	36
④ QosmioPlayer (CD)	44
⑤ QosmioPlayer (DVD)	44
⑥ QosmioPlayer の再インストール	50
⑦ 録画データを Windows 上へ転送する	55
5 リモコン	57
① リモコンについて	57
② 電池の取り付け／取りはずし	58
③ リモコンの各部名称	61

6	ディスプレイ	66
①	ディスプレイの設定	66
②	画面の明るさを調整する	68
③	高画質化処理	68
7	ハードディスクドライブ	73
8	サウンド機能	74
①	スピーカーの音量を調整する	74
②	音楽／音声の録音レベルを調整する	75
③	サウンドのパワーマネージメントを設定する	76
④	マイクの設定を行う	77
⑤	DVD の音声形式を設定する	78
9	ドライブ	79
①	使用できるメディアと対応するアプリケーション	80
②	使用できる CD	83
③	使用できる DVD	85
④	DVD-RAM を使うときは	88
10	ブリッジメディアスロット	92
①	SD メモリカードについて	92
②	メモリースティックについて	93
③	xD-ピクチャーカードについて	94
④	マルチメディアカードについて	94
⑤	メディアのセットと取り出し	95

2章 通信機能 99

1	LAN へ接続する	100
①	ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）	100
②	ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）	103
③	ネットワーク設定に便利な機能	116
2	Bluetooth 機能を使う	118
①	Bluetooth とは	118
②	Bluetooth 機能を使って通信する	120
3	内蔵モデムについて	122
①	海外でインターネットに接続する	122

3章 周辺機器の接続

123

1	周辺機器について	124
①	周辺機器を使う前に	125
2	PC カードを接続する	126
①	PC カードを使う前に	126
②	PC カードを使う	127
3	USB 対応機器を接続する	129
4	テレビを接続する	131
5	外部ディスプレイを接続する	138
6	モニタ入力を使う	140
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	143
8	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	145
9	その他の機器を接続する	148
①	マイクロホン	148
②	ヘッドホン	149
③	オーディオ機器	150
④	アナログのビデオカメラやビデオデッキなど	151
10	メモリを増設する	153

4章 バッテリ駆動

159

1	バッテリについて	160
①	バッテリ充電量を確認する	161
②	バッテリを充電する	163
③	バッテリパックを交換する	166
2	省電力の設定をする	169
①	東芝省電力	169
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	170
①	スタンバイ	171
②	休止状態	172
③	簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	173

5章 アプリケーションについて

175

1 アプリケーションを追加（インストール）する	176
2 アプリケーションを削除（アンインストール）する	177

6章 システム環境の変更

179

1 システム環境の変更とは	180
2 BIOS セットアップを使う	181
① 起動と終了	181
② BIOS セットアップの画面	183
③ 設定項目	184

付録

195

1 本製品の仕様	196
2 リモコン操作一覧（Windows XP）	198
3 言語コード一覧	200
4 技術基準適合について	202
5 無線 LAN について	216
6 Bluetooth について	225
さくいん	231

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠ 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠ 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
お願ひ	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポート、できる dynabookへの参照の場合 … 《 》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム(OS)を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003／ナチュラル インプット 2003を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBAを示します。

ドライブ DVDスーパーマルチドライブを示します。

 詳細について「1章 9 ドライブ」

ハードディスク 2台内蔵モデル

ハードディスクドライブが2台内蔵されているモデルを示します。

ハードディスク 1台内蔵モデル

ハードディスクドライブが1台内蔵されているモデルを示します。

記載について

- ・記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「*****モデルのみ」と注記します。
- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、Pentium、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標、または登録商標です。
- CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- CyberSupport、BeatJam は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- MagicGate、マジックゲートメモリースティック、メモリースティック、メモリースティッククロゴ、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO、メモリースティック PRO Duo は、ソニー株式会社の商標です。
- xD- ピクチャーカード™ は、富士フイルム株式会社の商標です。
- i.LINK は商標です。
- Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- LaLaVoice、ConfigFree は株式会社東芝の登録商標です。
- Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標です。
- Symantec は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
- McAfee、VirusScan およびマカフィーは米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- InterVideo、WinDVD、WinDVR、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- Sonic RecordNow! は Sonic Solutions の登録商標です。
- 「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- ・インテル Pentium M プロセッサ
- ・インテル 855 チップセット ファミリ
- ・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- ・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- ・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・目安として、気温 5 ~ 30°C (高所の場合 25°C) の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

アナログ放送からデジタル放送への移行について

デジタル放送への移行スケジュール

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、國の方針として決定されています。

コピーワンスについて

2004年4月1日より、NHKや民放連の地上／BSデジタル放送には、著作権保護の目的から、「コピーワンス」という1回だけ録画が可能になるコピー制御信号が加えられています。コピーワンスはDVDのCPRM (Content Protection for Recordable Media) 規格を使用しています。本製品内蔵のTVチューナはアナログ放送用のものですので、地上／BS、CSデジタル放送用のチューナを接続して、番組を視聴・録画することはできません。またテレビ番組を本製品で録画・再生される限り、コピーワンスについてご注意いただく必要はありません。他のレコーダなどでNHKや民放連の地上／BSデジタル放送の番組をDVD-RAMやDVD-RWディスクへ録画した場合は、そのディスクを本製品で再生することはできませんので、番組を録画した機器で再生いただくなか、または他のコピーワンスに対応した機器で再生してください。

ワイド画面における画面の引き伸ばしについて

1. 本製品は、各種の画面モード切り替え機能を備えています。テレビ番組等ソフトの映像比率と異なるモードを選択されると、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご注意の上、画面モードをお選びください。
2. 本製品を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において、画面モード切り替え機能等を利用して、画面の引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがありますので、ご注意願います。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windowsのツールまたは『困ったときは』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。

セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。

- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- ・QosmioPlayerの動作中は、自動的に電源を入れる機能を使ってシステムを起動することはできません。タイマー予約なども実行できませんので、ご注意ください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 詳細について『さあ始めよう 5章 3 お客様登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章

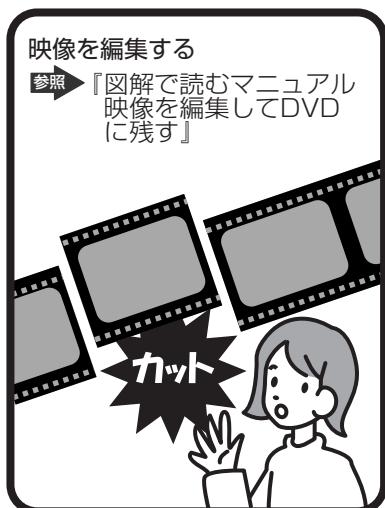
本体の機能

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1	パソコンでテレビを見る	12
2	フロントオペレーションパネル	19
3	QosmioUI	23
4	QosmioPlayer	32
5	リモコン	57
6	ディスプレイ	66
7	ハードディスクドライブ	73
8	サウンド機能	74
9	ドライブ	79
10	ブリッジメディアスロット	92

1 パソコンでテレビを見る

本製品にはTVチューナが内蔵されています。「WinDVR」を使ってテレビ番組を見たり録画したりすることができます。また、録画した番組を編集したりDVDに保存したりすることもできます。



ここでは「WinDVR」を使って、パソコンでテレビ番組を見たり録画したりするときの準備について説明します。

1) TVチューナーの使用にあたって

【アンテナについて】

- 画像や音声の品質はアンテナの電波受信状況によって大きく左右されます。
- 電波の弱い地域で、受信状態が悪い場合は購入店にご相談されるか、市販のアンテナブースターをご利用ください。アンテナブースターのご使用方法は、アンテナブースター付属の説明書をご覧ください。

【大切な録画・録音・編集について】

- 大切な録画・録音・編集の場合は、事前に試し録画・録音・編集を行い、正しくできることを確かめてください。
- 放送チャンネルや番組によっては、音量オーバーすると音が割れたり、飛んだりすることがあります。必要に応じて調整してください。

【テレビ視聴と録画について】

- バッテリ駆動で使用中にテレビ視聴や録画を行うと、バッテリの消耗などによって画像がコマ落ちするおそれがあります。必ずACアダプタを接続して、使用してください。

また、本製品の省電力機能が実行されないようにしてください。

 省電力機能について「4章 2 省電力の設定をする」

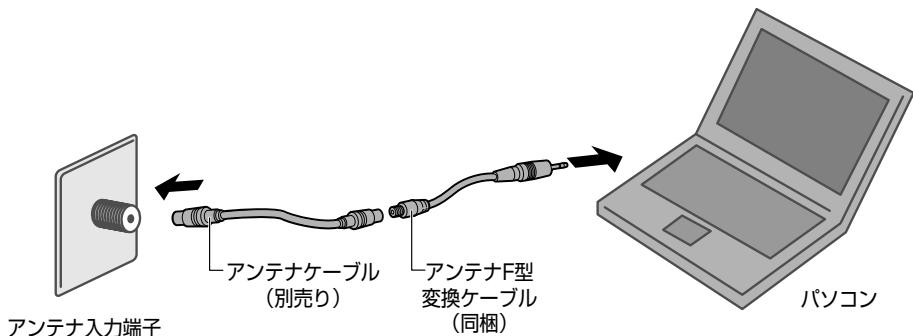
- 録画中や再生中にパソコン本体に振動や衝撃を加えると、映像が途切れたり、停止したりしてしまうことがあります。
- 本製品を利用してパソコンで映像・音声を視聴する場合、MPEG変換のために実時間より数秒ほど再生が遅れます。厳密に実時間で見る必要がある場合は、本製品を使わず直接テレビでご視聴ください。
- ビデオデッキなどの映像を取り込んだとき、「垂直帰線区間（VBLANK）」と呼ばれるノイズも同時に取り込まれ、画面上部、または下部にノイズがのることがあります。これは信号の同期をとるためにNTSCなどアナログテレビの映像信号の先頭に付与されているもので取り除くことができないので、ご了承ください。
- ビデオデッキでビデオテープを再生して本製品に入力する場合、古いテープなどノイズが多いテープを使用すると、コピープロテクト機能が働いて正常に動作しない場合があります。
- CATV番組の受信には、使用的する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。また、スクランブルのかかった番組（有料放送など）の視聴・録画にはホームターミナル（アダプタ）が必要になる場合があります。詳しくは、ホームターミナルに添付の説明書をご覧になるか、各CATV会社にお問い合わせください。

【対応する地域について】

- 日本国外ではご使用になれません。日本国内でご使用ください。
- 本製品のTVチューナはPAL/SECAM方式の受信が可能であり、韓国への持ち込みと使用は韓国の法令により禁止されています。

2 ケーブルの接続

パソコンのアンテナ入力端子とご家庭のテレビアンテナ（アンテナ入力端子）をケーブルで接続します。接続には、同梱のアンテナF型変換ケーブルを使用してください。



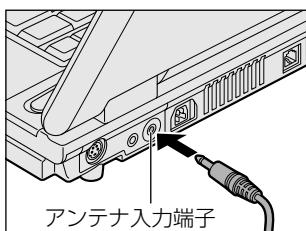
1 アンテナF型変換ケーブルの接続

△ 注意

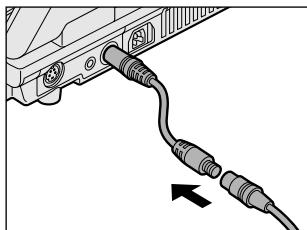
- 雷が鳴り出したら、アンテナ線には触れないでください。感電の原因となります。
- アンテナがパソコン本体に接続されている間は、ACアダプタを必ずパソコン本体に接続してください。落雷により感電するおそれがあります。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 アンテナF型変換ケーブルをアンテナ入力端子に接続する



3 アンテナF型変換ケーブルにアンテナケーブルを接続する



3) ゴーストリダクション機能

本製品には、テレビ視聴をするために、ゴーストリダクション機能が用意されています。ゴーストリダクションとは、画面に出てしまうゴースト（二重映り）を軽減する機能です。

電波の反射などにより地上波放送にゴーストが表示されてしまうときに、ゴーストリダクション機能を有効にします。ゴーストを減らし、見やすい映像にすることができます。

1 設定方法

ゴーストリダクション機能は、本製品に添付の「ゴーストリダクション設定ユーティリティ」で設定します。

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [ゴーストリダクション設定ユーティリティ] をクリックする

[ゴーストリダクション設定ユーティリティ] 画面が表示されます。



- [ON] をチェックして [OK] ボタンをクリックする

➡ QosmioPlayer (TV) のゴーストリダクション設定について
「本章 4-③-1 テレビ設定」

メモ

テレビ視聴の状態によっては、ゴーストリダクション機能を「ON」（有効）にしてもゴーストは軽減されません。また、地域によってはゴーストリダクション機能を「OFF」（無効）に設定したほうが、見やすい映像になる場合があります。状況に応じて設定してください。

4) 「WinDVR」を使う

お願い WinDVR の使用にあたって

- 「WinDVR」で録画されたテレビ番組などは、個人で楽しむ目的だけに使用できます。
- 「WinDVR」動作中は画面解像度、色数の設定変更を行わないでください。
- パソコンの電源がオフの場合、予約録画を実行できません。
- パソコンがログオフ状態の場合は予約録画を実行できません。予約録画中は、ログオフしないようにしてください。
- 予約録画を設定する場合は、必ず録画可能時間を確認して行ってください。
- 「WinDVR」を使用するとき（再生、録画、予約録画など）は、必ず AC アダプタを使用してパソコン本体を電源に接続して使用してください。バッテリ駆動で使用すると、バッテリの消耗などにより、録画が失敗したり、音が飛んだりするおそれがあります。
- 使用状況やシーンによっては映像がスムーズに再生されない場合があります。
- 他のアプリケーションが動作していると、音飛びが発生したり、音と映像がずれたり、映像が正しく表示されないなど、正常に動作しない場合があります。
「WinDVR」の動作中は、他のアプリケーションを終了してください。
音ずれが起きた時は、一度「WinDVR」を終了し、他のアプリケーションをすべて終了してから、「WinDVR」を起動してください。
- 著作権保護されているコンテンツは録画、および視聴することができません。
- テレビ番組、ビデオデッキやアナログのビデオカメラのテープの映像を録画・取り込みし、編集するときは、まず「WinDVR」を使用して映像を取り込み、その後「WinDVD Creator 2 Platinum」で編集してください。「WinDVR」の使いかたは『図解で読むマニュアル テレビを見る／番組を録画する』、「WinDVD Creator 2 Platinum」の使いかたは『図解で読むマニュアル 映像を編集して DVD に残す』をご覧ください。

- 「WinDVR」の動作中は、スタンバイ、休止状態にすることができません。
- Windows のシャットダウンを途中でキャンセルした場合、「WinDVR」が正常に動作できなくなります。シャットダウンを途中でキャンセルした場合は、一度 Windows を再起動してください。
- チャンネルのオートスキャンを実行したとき、映像表示可能なチャンネルでも検出できない場合があります。
セットアップダイアログの [TV] タブにある、[ファインチューン] 下のスライダーを左右に動かして調整してください。
- 「WinDVR」の動作中、次の予約録画開始時刻の 3 分前以降にスタンバイになると、予約録画が開始されません。
予約録画開始時刻の 3 分前以降はスタンバイが実行されないようにしてください。
- 「WinDVR」をインストールするときは、コンピュータの管理者アカウントが必要です。「WinDVR」をインストールするときは、コンピュータの管理者アカウントでログオンしてインストールしてください。
* 本製品にはあらかじめインストールされています。
- 連続した複数の予約録画がある場合、次の録画の準備を行うため、設定した終了時刻よりも約 50 秒程度早く停止します。
(例) 1:00-2:00 と 2:00-3:00 の録画予約がある場合、1:00-2:00 の録画が約 50 秒程度早く、つまり 1 時 59 分 10 秒頃に録画が終了します。
本ソフトウェアの仕様のため、連続した予約録画を行う際はご注意ください。
- ユーザーパスワード、Windows ログオンパスワードのいずれかまたは両方を設定している場合、休止状態またはスタンバイになると、予約録画が実行されません。
休止状態またはスタンバイの状態で予約録画を行う場合は、録画の予約前にそれぞれのパスワードを解除してください。

参照 ➔ 『さあ始めよう 4 章 パスワードについて』
「6 章 2-❸-4 PASSWORD」

1 起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVR] → [InterVideo WinDVR] をクリックする

「WinDVR」の使いかたについては、「InterVideo WinDVR」のヘルプをご覧ください。

バッテリ駆動で使用中にテレビ視聴や録画を行うと、バッテリの消耗などによって画像がコマ落ちするおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続して、使用してください。

また、本製品の省電力機能が実行されないようにしてください。

参照 ➤ 省電力機能について「4 章 2 省電力の設定をする」

メモ

- リモコンでチャンネルを変更することができます。[10/0] ボタンは「0(ゼロ)」として動作します。[11]、[12] ボタンは「WinDVR」ではサポートしておりません。2桁のチャンネルを指定する場合は、数字ボタンを1つずつ押してください。例えば、「10」を選択するときは[1]と押し、「WinDVR」画面左上の「1」表示が消えた直後に [10/0] を押すと画面左上の表示が「10」になり、その後画面が切り替わります。

2 ヘルプの起動方法

1 WinDVR コントロールパネルの [ヘルプ] ボタン (?) をクリックする

参照 ➤ 「WinDVR」の問い合わせ先

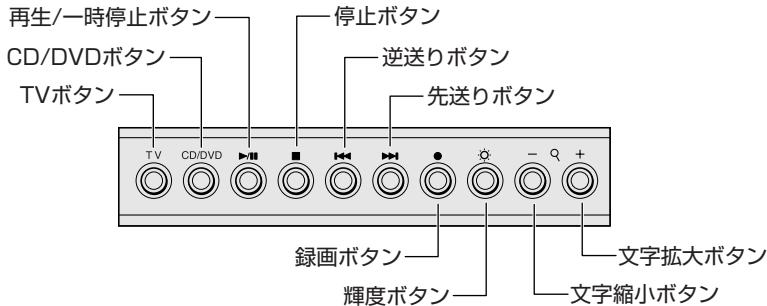
『図解で読むマニュアル テレビを見る／番組を録画する』

ヘルプには、「WinDVR」を使用するときに注意することなども記載されているため、よくお読みください。

2 フロントオペレーションパネル

パソコンでテレビやDVD-Videoを見たり音楽を聴いたりするとき、フロントオペレーションパネルを使用すると簡単に操作することができます。

また、本体液晶ディスプレイの輝度を調節したり、画面やアイコンなどを拡大することもできます。



それぞれのボタンの機能は、次のようにになっています。

【TVボタン】

「WinDVR」を起動または終了します。

パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「QosmioPlayer(TV)」を起動します。

「QosmioPlayer」について 「本章 4 QosmioPlayer」

【CD/DVDボタン】

「QosmioUI」を起動します。

パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「QosmioPlayer」の次の機能を起動します。

ドライブにCDがセットされている場合 : QosmioPlayer (CD)

ドライブにDVDがセットされている場合 : QosmioPlayer (DVD)

「QosmioPlayer」について 「本章 4 QosmioPlayer」

【再生/一時停止ボタン】

音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。

起動するアプリケーションは、次のものです。

ドライブにDVDがセットされている場合 : WinDVD

ドライブにDVD以外がセットされている場合 : BeatJam

すでに再生するアプリケーションが起動している場合には、一時停止または一時停止を解除します。

また「QosmioPlayer (TV)」を起動しているときに押すと、録画したテレビ映像がある場合は、その映像を再生します。

【停止ボタン】

そのとき操作しているアプリケーションを、停止します。いくつもアプリケーションを起動している場合、最前面に表示されているアプリケーションにのみ有効です。このボタンは、「BeatJam」「WinDVD」「QosmioPlayer (CD)」「QosmioPlayer (DVD)」「QosmioPlayer (TV)」(録画、再生時のみ)に対して、操作可能です。

【逆送りボタン】

そのとき再生している音楽や映像のトラック／チャプタを1つ前に戻します。このボタンは、「BeatJam」「WinDVD」「QosmioPlayer (CD)」「QosmioPlayer (DVD)」に対して、操作可能です。

【先送りボタン】

そのとき再生している音楽や映像のトラック／チャプタを1つ進めます。このボタンは、「BeatJam」「WinDVD」「QosmioPlayer (CD)」「QosmioPlayer (DVD)」に対して、操作可能です。

【録画ボタン】

「WinDVR」または「QosmioPlayer (TV)」を起動しているときに押すと、録画を開始します。

【輝度ボタン】

1回押すごとに、本体液晶ディスプレイの明るさが「8 → 1 → 2 → 3…」と8段階に切り替わります。初期状態は「8」(最高輝度)に設定されています。

このボタンは、Windowsが起動しているときと、「QosmioPlayer」に対して、操作可能です。

【文字縮小ボタン】

画面やアイコンなどを縮小します。

このボタンは、Windowsが起動しているときに操作可能です。

【文字拡大ボタン】

画面やアイコンなどを拡大します。

このボタンは、Windowsが起動しているときに操作可能です。

ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する

ボタンを押したときに起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。[録画] ボタン、[輝度] ボタン、[文字縮小] ボタン、[文字拡大] ボタンの設定を変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝コントロール] をクリックする
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [ボタン] タブで、設定を変更したいボタン名の右下の ▾ ボタンをクリックする

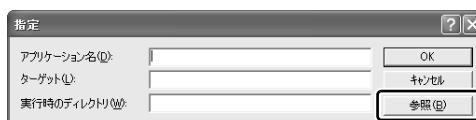


それぞれの項目は次のボタンに対応しています。

- REC ボタン 録画ボタン
- Brightness ボタン 輝度ボタン
- Zoom out ボタン 文字縮小ボタン
- Zoom in ボタン 文字拡大ボタン

設定できる動作の一覧が表示されます。

- 4 [アプリケーションの指定] を選択する
[指定] 画面が表示されます。
このとき、他の項目を選択した場合は手順 8 に進んでください。
- 5 [参照] ボタンをクリックする



[ファイルを開く] 画面が表示されます。

6 ボタンに設定したいアプリケーション名をクリックし、[開く] ボタンをクリックする

[指定] 画面に戻ります。

[アプリケーション名] に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

7 [OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

割り当てたいボタンの欄に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。



8 [OK] ボタンをクリックする

3 QosmioUI

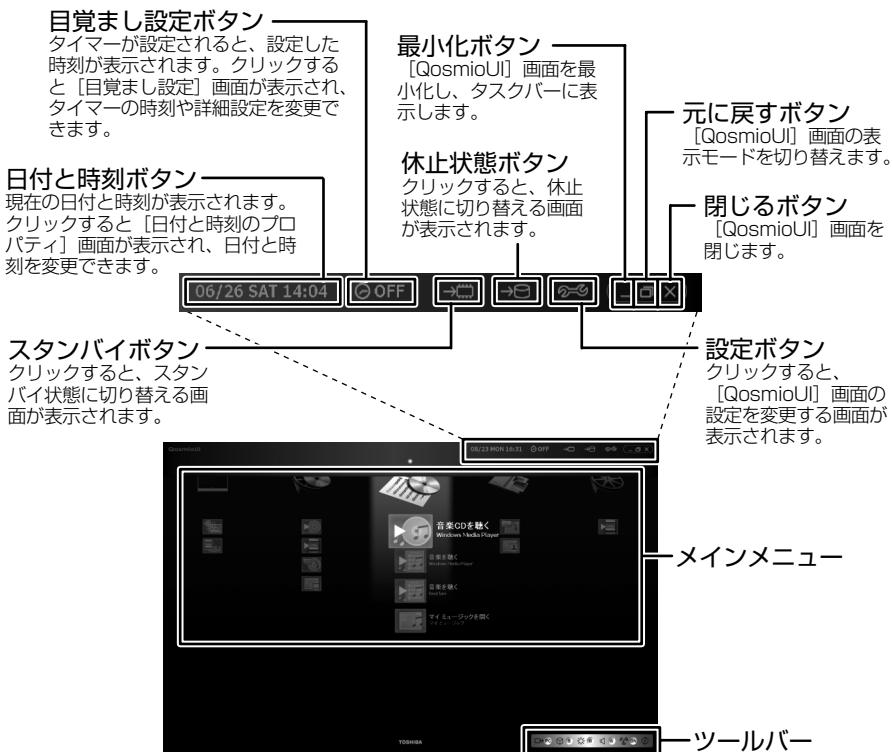
「QosmioUI」は、パソコンで音楽や映像を楽しむために、ガイドをするアプリケーションです。QosmioUI からパソコンに用意されているさまざまなエンターテイメント・アプリケーションが起動でき、テレビを録画したり、ビデオや写真を見たり、音楽を聴いたりすることができます。画面の設定や音量を調節したり、スタンバイ / 休止状態にしたりすることもできます。

1 基本操作

1 QosmioUI の起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [QosmioUI] をクリックする
[QosmioUI] 画面が表示されます。

2 [QosmioUI] 画面について



メインメニューの項目は、次のとおりです。

テレビ	「WinDVR」を使って、テレビ番組を見たり、録画／再生することができます。 参照 ➔ 詳細について「本節 ② テレビを見る」
ビデオ	デジタルビデオやインターネットから取り込んだ映像を再生したり、管理します。 参照 ➔ 詳細について「本節 ③ ビデオを観る」
音楽	音楽 CD を聴いたり、音楽ファイルを再生することができます。 参照 ➔ 詳細について「本節 ④ 音楽を聴く」
写真	デジタルカメラの画像を編集したり、アルバムを作って画像を管理します。 参照 ➔ 詳細について「本節 ⑤ 写真を見る」
デモ	「WinDVD」を使って、サンプルビデオを表示します。 参照 ➔ 詳細について「本節 ⑥ サンプルビデオを表示する」

【ツールバー】



(表示例)

ツールバーの項目は、次のとおりです。

出力設定	表示装置を本体液晶ディスプレイまたはテレビに切り替えます。
映像設定	映像を観る環境にあわせて、画質を調整します。「あざやか」、「標準」、「映画」、「オフ」のいずれかを設定できます。[詳細] ボタンをクリックすると、[映像調整ユーティリティ] 画面が表示されます。 参照 ➡ 「映像調整ユーティリティ」について 「本章 6-③-2 映像調整ユーティリティ」
輝度設定	本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を8段階で調節します。設定した輝度が数字でアイコンの右側に表示されます。
音量	音量を調節します。設定した音量が数字（0～20）でアイコンの右側に表示されます。
音質設定	音楽や音声を聴く環境にあわせて、サウンドの音質を設定します。「オン」、「オフ」のいずれかを設定できます。[詳細] ボタンをクリックすると、[TOSHIBA Virtual Sound] 画面が表示されます。 参照 ➡ 「TOSHIBA Virtual Sound」について 『図解で読むマニュアル 目的のAV機能を立ち上げる』
ドライブ速度	音楽CDを楽しむときに「静音」を設定すると、ドライブの回転速度をおさえ、動作音を小さくできます。

2 テレビを見る

メインメニューの「テレビ」からは、「WinDVR」を使って、テレビ番組を見たり、録画／再生することができます。TVチューナの使用方法やケーブルの接続方法については、「本章 1 パソコンでテレビを見る」を参照してください。

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体にアンテナF型変換ケーブルを接続する
参照 ➡ 「本章 1-② ケーブルの接続」
- 3 パソコン本体の電源を入れ、QosmioUI を起動する
- 4 メインメニューから [テレビ] → [TVを見る／録画する] をクリックする

「WinDVR」が起動します。「WinDVR」の使いかたについては「InterVideo WinDVR」のヘルプをご覧ください。

録画したデータをコピーする

QosmioPlayer で録画したデータを Windows 上へ転送することができます。

- 1 メインメニューから [テレビ] → [録画したデータをコピーする] をクリックする

[QosmioPlayer 転送ユーティリティ] 画面が表示されます。以降は、画面の指示に従って操作してください。

「QosmioPlayer 転送ユーティリティ」の操作方法については、「本章 4-⑦ 録画データを Windows 上へ転送する」を参照してください。

3 ビデオを見る

メインメニューの「ビデオ」からは、デジタルビデオやインターネットから取り込んだ映像を再生したり、管理できます。

- 1 メインメニューから [ビデオ] の使いたい項目にカーソルを合わせ、クリックする

「ビデオ」の項目は、次のとおりです。

DVD を観る	「WinDVD」を起動し、DVD を再生します。 参照 ➤ 「WinDVD」の操作方法 『図解で読むマニュアル DVD の映画や映像を観る』
ビデオを見る	「Windows Media Player」を起動し、デジタルビデオやインターネットから取り込んだ映像を再生します。 参照 ➤ 「Windows Media Player」の操作方法 《サイバーサポート（検索）： 音楽 CD やファイル、ムービーを再生したい》
ビデオを編集する	「WinDVD Creator」を起動し、デジタルビデオやインターネットから取り込んだ映像を編集します。 参照 ➤ 「WinDVD Creator」の操作方法 『図解で読むマニュアル 映像を編集して DVD に残す』
マイ ビデオを開く	Windows の [マイ ビデオ] に保存されたフォルダやファイルの一覧を表示します。

4 音楽を聴く

メインメニューの「音楽」からは、「Windows Media Player」を起動して音楽CDを聴いたり、音楽ファイルの再生や管理ができます。

1 メインメニューから【音楽】の使いたい項目にカーソルを合わせ、クリックする

「音楽」の項目は、次のとおりです。

音楽CDを聴く	「Windows Media Player」を起動し、音楽CDを再生します。 参照 ➤ 「Windows Media Player」の操作方法 《サイバーサポート（検索）： 音楽CDやファイル、ムービーを再生したい》
音楽を聴く	「Windows Media Player」を起動し、音楽ファイルを再生します。 参照 ➤ 「Windows Media Player」の操作方法 《サイバーサポート（検索）： 音楽CDやファイル、ムービーを再生したい》
音楽を聴く	「BeatJam」を起動し、音楽ファイルを再生します。 参照 ➤ 「BeatJam」の操作方法 『図解で読むマニュアル 音楽を聴く』
マイミュージックを開く	Windowsの【マイミュージック】に保存されたフォルダやファイルの一覧を表示します。

5) 写真を見る

「FinePixViewer Lite」を起動してデジタルカメラの画像を編集したり、アルバムを作成して画像を管理します。

1 メインメニューから [写真] の使いたい項目にカーソルを合わせ、クリックする

「写真」の項目は、次のとおりです。

写真を見る	「FinePixViewer Lite」を起動し、デジタルカメラの画像を編集したり、アルバムを作成して画像を管理します。 参照 ➔ 「FinePixViewer Lite」の操作方法 『図解で読むマニュアル デジタルカメラの写真を編集する』 《サイバーサポート（検索）： デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい》
マイピクチャを開く	Windowsの「マイピクチャ」に保存されたフォルダやファイルの一覧を表示します。

6) サンプルビデオを表示する

「WinDVD」を起動し、東芝オリジナルのビデオ映像をサンプルとして再生します。

1 メインメニューから [デモ] の [サンプルビデオ] にカーソルを合わせ、クリックする

「WinDVD」を起動し、オリジナルのビデオ映像を再生します。

参照 ➔ 「WinDVD」の操作方法

『図解で読むマニュアル DVDの映画や映像を観る』

7 タイマーを設定する

テレビやCDにタイマーを設定できます。

メモ

- 目覚まし機能を使う場合は、必ず事前にWindowsログオンパスワードを設定しておいてください。
 - 参照 → Windowsログオンパスワードの詳細
『さあ始めよう 4章 1 Windows ログオンパスワード』
- 「東芝パスワードユーティリティ」や「BIOSセットアップ」でパスワードを設定していると、タイマーを設定しても目覚まし機能が動作しません。ユーザパスワードが設定されている場合は、必ず解除しておいてください。
 - 参照 → 「東芝パスワードユーティリティ」のユーザパスワードの削除
《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》
 - 参照 → 「BIOSセットアップ」のユーザパスワードの削除
「6章 2-③-4- ユーザパスワードの削除」

1 [QosmioUI] 画面の目覚まし設定ボタン (OFF) をクリックする
[目覚まし設定] 画面が表示されます。

2 [目覚まし機能] で [ON] をチェックする



3 [開始時刻] を設定する

タイマーを設定する時刻を設定します。「AM」「PM」も設定してください。
終了時刻の設定はできません。

4 [視聴内容] で「CD」か「TV」を選ぶ

「TV」を選んだ場合は、設定した時刻に「WinDVR」で最後にみたチャンネルのテレビ映像が表示されます。「CD」を選んだ場合は、設定した時刻にセットしてある CD の 1 曲から演奏します。

チャンネルや曲の指定はできません。

5 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する

Windows ログオンパスワードの「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。入力しないと、目覚まし機能が動作しません。

参照 Windows ログオンパスワードの詳細

『さあ始めよう 4 章 1 Windows ログオンパスワード』

6 [OK] ボタンをクリックする

目覚まし機能使用時の注意点が表示されます。内容をよく確認してください。

7 [OK] ボタンをクリックする

[QosmioUI] 画面の目覚まし設定ボタンの「OFF」の表示がタイマーの設定時刻に変わります。

メモ

- 手順2で【目覚まし機能】を「ON」に設定すると、毎日手順3で設定した【開始時刻】の時刻にパソコンの電源が入り、目覚まし機能が動作します。目覚まし機能を使わないときは、手順2で【目覚まし機能】を「OFF」に設定しておいてください。

8) QosmioUI の設定を変更する

[QosmioUI] 画面の表示フォントを大きくしたり、メインメニューに表示されるアイコンの追加や削除ができます。

1 [QosmioUI] 画面の設定ボタン () をクリックする

[QosmioUI の設定] 画面が表示されます。



2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。

画面表示	[QosmioUI] 画面の文字の大きさを変更します。「大きめ」を選ぶと、画面の文字が大きくなります。
カテゴリ選択	「テレビ」、「ビデオ」、「音楽」、「写真」の4つからカテゴリを選択します。メインメニューでは、設定したカテゴリのところにアイコンを表示します。
項目選択	メインメニューの項目を追加／変更をしたり、追加した項目を削除することができます。 項目を追加する場合は、[追加] ボタンをクリックします。項目名を入力する欄にカーソルが表示され、項目名が入力できるようになります。メインメニューにはあらかじめ設定されている項目を含め、最大5つまで登録できます。 項目を削除する場合は、削除する項目を選択し、[削除] ボタンをクリックします。メインメニューにあらかじめ設定されている項目は、削除できません。
プログラム	[プログラム] には、[項目選択] で選択したアイコンから起動させるプログラムが表示されます。[参照] ボタンをクリックすると、起動させるプログラムを変更できます。

3 [OK] ボタンをクリックする

[QosmioUI] 画面の設定が変更されます。

4 QosmioPlayer

コスミオプレーヤー

本製品には、テレビ視聴や録画、またはCD／DVD再生のために「QosmioPlayer」が用意されています。ここでは、QosmioPlayerについて説明します。

【表記について】

本節でQosmioPlayerの操作を説明する上で、次の記号を使用します。

リモコン：同梱のリモコンからの操作を示します。

キーボード：パソコン本体のキーボードからの操作を示します。

1) QosmioPlayerとは

QosmioPlayerには、次の3つの機能があります。

- ・テレビを見る／録画する 「QosmioPlayer (TV)」
- ・音楽CDを再生する 「QosmioPlayer (CD)」
- ・DVDを再生する 「QosmioPlayer (DVD)」

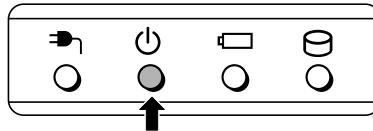
これらを、「パソコンに電源を入れる」→「テレビやCD／DVD再生のアプリケーションを起動する」といった操作をすることなく、ボタンやキーを押すだけで、簡単に行えます。



QosmioPlayer各機能の起動／終了や簡単な操作方法は、『図解で読むマニュアル手軽にAV機能を楽しむ』に記載されています。まず『図解で読むマニュアル』をよく読んでから、以降の説明をご覧ください。

QosmioPlayerに関する表示

QosmioPlayer使用中は、Power LEDが緑色に点灯します。



【ドルビーデジタルオーディオ符号化システムについて】

「QosmioPlayer」は、ドルビーデジタルオーディオ符号化システムを使用しています。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権 1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

2) QosmioPlayer の操作一覧

QosmioPlayer の操作は、リモコン／キーボード／フロントオペレーションパネルから実行できます。リモコンとキーボードからの操作は、次の表を参照してください。リモコンの各部名称は「本章 5 リモコン」をご覧ください。フロントオペレーションパネルからの操作については、「本章 2 フロントオペレーションパネル」をご覧ください。

リモコン	パソコン本体	TV機能	CD機能	DVD機能
電源	電源スイッチ	TV終了	CD終了	DVD終了
TV	F10	TV起動 ^{*1}	CD終了→TV起動	DVD終了→TV起動
CD/DVD	F11	TV終了→ CDまたはDVD起動	CD起動 ^{*1}	DVD起動 ^{*1}
入力切替		TV/ライン切り替え ^{*2}		
輝度△	FN + F7	画面の輝度を上げる	画面の輝度を上げる	画面の輝度を上げる
輝度▽	FN + F6	画面の輝度を下げる	画面の輝度を下げる	画面の輝度を下げる
1	1	1チャンネルを選択	1曲目を選択	1番目のチャプタを選択
2	2	2チャンネルを選択	2曲目を選択	2番目のチャプタを選択
3	3	3チャンネルを選択	3曲目を選択	3番目のチャプタを選択
4	4	4チャンネルを選択	4曲目を選択	4番目のチャプタを選択
5	5	5チャンネルを選択	5曲目を選択	5番目のチャプタを選択
6	6	6チャンネルを選択	6曲目を選択	6番目のチャプタを選択
7	7	7チャンネルを選択	7曲目を選択	7番目のチャプタを選択
8	8	8チャンネルを選択	8曲目を選択	8番目のチャプタを選択
9	9	9チャンネルを選択	9曲目を選択	9番目のチャプタを選択
10/0	1、0	10チャンネルを選択		
	0		2桁の曲番号 選択時、ゼロ	2桁のチャプタ番号 選択時、ゼロ
11	1、1	11チャンネルを選択		
12	1、2	12チャンネルを選択		
チャンネル△	FN + ↑	チャンネルを進める		
チャンネル▽	FN + ↓	チャンネルを戻す		

* 1 リモコンでの操作のみ有効です。

* 2 1回押すごとに、テレビ→モニタ入力端子→S端子→テレビ…と切り替わります。

リモコン	パソコン本体	TV機能	CD機能	DVD機能
DVDメニュー	F8またはF9 ^{*3}			メニュー表示
▲	↑	設定項目移動		設定項目移動
◀	←	設定項目移動		設定項目移動
▶	→	設定項目移動		設定項目移動
▼	↓	設定項目移動		設定項目移動
決定	ENTER	決定または設定完了	曲選択決定	決定または設定完了
設定	F2	設定メニュー表示 ／非表示		設定メニュー表示 ／非表示
戻る	ESC	メニュー取り消し ／非表示 ／ライブラリの非表示		メニュー取り消し ／戻る／リターン ^{*4}
音量+	CTRL + ↑	音量上げる	音量上げる	音量上げる
音量-	CTRL + ↓	音量下げる	音量下げる	音量下げる
ミュート	M	消音 ^{*5}	消音 ^{*5}	消音 ^{*5}
録画	CTRL + R	録画		
タイムシフト	CTRL + T	追っかけ再生または お好み再生		
リプレイ	CTRL + K	約10秒前に戻す		約10秒前に戻す
スキップ	CTRL + L	約30秒後にスキップ		約30秒後にスキップ
◀◀	< または O	早戻し ^{*6}	約10秒前に戻す	早戻し ^{*6}
▶/II	SPACE	再生／一時停止 ^{*7}	再生／一時停止 ^{*7}	再生／一時停止 ^{*7}
▶▶	> または P	早送り ^{*6}	約10秒後にスキップ	早送り ^{*6}
◀◀	K		前の曲 ^{*8}	ひとつ前のチャプタ／ チャプタの先頭 ^{*9}
■	CTRL + SPACE	停止 ^{*10}	停止	停止
▶▶	L		次の曲	次のチャプタ

- * 3 [F8]キーを押すとトップメニュー、[F9]キーを押すとメニューが表示されます。DVDには構造によってさまざまなメニューが用意されています。この操作をしたときに表示されるメニューは、DVDによって異なります。
- * 4 リターン：DVDで指定された画面に戻ります。再生するDVDに付属の説明書もあわせてご覧ください。
- * 5 1回押すと消音し、もう1回押すと消音する前の音量レベルに戻ります。消音中に音量を調整すると消音は解除され、消音前の音量レベルから調整されます。
- * 6 同じ操作を続けて行うと、速度が変わります。例えば早送り再生中にリモコンの[▶▶]ボタンを続けて押すと、1回押すたびに早送りの速度が変わります。通常再生に戻すには、リモコンの[再生／一時停止]ボタンまたはキーボードの(SPACE)キーを押します。
- * 7 1回押すごとに再生／一時停止が切り替わります。
- * 8 曲の再生が始まって2秒以上たってから押すと、再生中の曲の先頭から再生します。
- * 9 続けて2回押すと、1つ前のチャプタの先頭から再生します。
- * 10 録画／再生／追っかけ再生／お好み再生の停止をします。

リモコン	パソコン本体	TV機能	CD機能	DVD機能
表示	D	表示切替 ^{*11}	表示切替 ^{*12}	表示切替 ^{*13}
アングル	G			アングル切替
字幕	S			字幕切替
音声／音多	A	音多切替 ^{*14}		音声切替
全画面	W	画面サイズ変更 ^{*15}		
項目選択	F9 ^{*16} または TAB	ライブラリ表示		
	CTRL + R		1曲リピート ／Discリピート	
	CTRL + S		シャッフル再生	
	T			タイトル選択
	Y	スロー再生 ^{*17}		スロー再生 ^{*17}
	F1	キーガイド表示	キーガイド表示	キーガイド表示
	E		ディスクトレイを開く	ディスクトレイを開く

* 11 1回押すごとに、現在の状態を数秒表示→情報を常時表示→表示なし→現在の状態を数秒表示…と切り替わります。

* 12 音楽CDを聴いているとき、表示モードを次のいずれかに切り替えることができます。

- ・現在再生している曲の再生時間／現在再生している1曲の演奏時間（標準値）
- ・ディスクの先頭からの再生時間／ディスク全体の演奏時間

* 13 1回押すと現在の状態、タイトル番号、チャプタ番号、時間を表示し、もう1回押すと非表示になります。再生しているシーンによって、表示される項目は異なります。

* 14 1回押すごとに、次のように切り替わります。

- ・主音声→副音声→主／副音声→主音声…（テレビの音声多重放送の場合）
- ・LR → LL → RR → LR…（再生中の場合）
 - LR：左右、両チャンネルの音声を出力します。
 - LL：左チャンネルの音声を左右両方から出力します。
 - RR：右チャンネルの音声を左右両方から出力します。

* 15 1回押すごとに、ノンリニアスケーリング→ズーム→フル→ノーマル→ノンリニアスケーリング…と切り替わります。

* 16 TV機能使用中に押すと、ライブラリが表示されます。

* 17 再生中にキーボードの(Y)キーを続けて押すと、1回押すたびに再生速度が変わります。

通常再生に戻すには、リモコンの【再生／一時停止】ボタンまたはキーボードの(SPACE)キーを押します。

メモ

- 操作の一覧の中で、キーを「+」でつないで記載されているときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。
・例：(FN)+(F7)
この場合は、(FN)キーを押したまま(F7)キーを押します。
- CD／DVDの再生で、再生したい曲またはチャプタの番号を選択したい場合に、曲の番号が1行のときは、次のいずれかを実行してください。
 - 再生したい曲またはチャプタの番号を入力し、リモコンの【決定】ボタンまたはキーボードの[ENTER]キーを押す
 - 再生したい曲またはチャプタの番号を入力し、2秒待つ
再生したい曲またはチャプタの番号が2行の場合は、その番号を入力するとそのまま再生されます。

3 QosmioPlayer (TV)

ここでは、「本節 ② QosmioPlayer の操作一覧」で紹介した、テレビ機能に関する操作の補足や、その他の機能について説明します。

1 テレビ設定

テレビ設定メニューでは、テレビを見るうえでのさまざまな設定をすることができます。

次のように操作して、テレビ設定メニューを起動できます。

- リモコンの【設定】ボタン、またはキーボードの[F2]キーを押す
[テレビ設定メニュー] 画面が表示されます。



(表示例)

画面下部のキー操作表示を参照して、設定したい項目を選択してください。チャンネルや画質などが設定できます。

メモ

録画タイトルの再生中には、テレビ設定メニューの設定はできません。

テレビ設定メニューを終了してテレビ視聴に戻るには、リモコンの【設定】ボタン、またはキーボードの(F2)キーを押してください。

チャンネル設定

複数のチャンネル設定方法を選ぶことができます。録画中は、チャンネル設定を選択できません。

【オートスキャン】

受信可能なすべてのチャンネルを、自動的に検出しチャンネルを再設定します。【テレビ設定メニュー】画面で、【チャンネル設定】→【オートスキャン】を選択してください。確認の画面が表示されオートスキャンが実行されます。オートスキャンを実行すると、それまでのチャンネル番号の設定は失われ、新たにチャンネル番号が割り当てられます。

オートスキャンを実行して、映るチャンネルが1つも検出できなかった場合は、チャンネルリストは再設定されません。

【地域設定】

【テレビ設定メニュー】画面で、【チャンネル設定】→【地域設定】を選択してください。地域番号を入力する画面が表示されるので、別紙の『地域コード一覧』を参照し、地域番号を入力してください。「0」または「000」と入力すると、初期設定に戻ります。

【個別設定】

【テレビ設定メニュー】画面で、【チャンネル設定】→【個別設定】を選択してください。チャンネル・個別設定画面が表示されるので、設定したい番号と実際のチャンネルを入力してください。

【チャンネル微調整】

【テレビ設定メニュー】画面で、【チャンネル設定】→【チャンネル微調整】を選択してください。チャンネル微調整画面が表示されるので、リモコンまたは、キーボードの(←)→キーでTV映像を見ながら調整してください。設定するチャンネルを変更する場合は、リモコンまたはキーボードの↑↓キーで画面右上に表示されているチャンネル番号を変更してください。

チャンネルの設定は、「QosmioPlayer」と「WinDVR」とで個別に設定する必要があります。

画質設定

テレビ視聴時の画質について設定します。

【映像設定】

[テレビ設定メニュー] 画面で、[画質設定] → [映像設定] を選択してください。メニューが表示され、「あざやか」、「標準」、「映画」、「お好み」のいずれかの映像タイプを設定できます。

「お好み」を選択すると、明るさ、色合い、コントラスト、濃さを好みに合わせて調整できます。

【シャープネス設定】

映像の境界を強調し、くっきりした映像にします。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[画質設定] → [シャープネス設定] を選択してください。メニューが表示され、「強」、「中」、「弱」のいずれかを設定できます。

【GR設定】

画面にでてしまうゴースト（二重映り）を軽減します。

電波の反射などにより地上波放送にゴーストが表示されてしまうことがあります。GR設定を「ON」にするとゴーストが減り、見やすい映像になります。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[画質設定] → [GR設定] を選択してください。「ON」、「OFF」のいずれかを設定できます。

メモ

テレビ視聴の状態によっては、GR設定を「ON」（有効）にしてもゴーストは軽減されません。また、地域によってはGR設定を「OFF」（無効）に設定したほうが、見やすい映像になる場合があります。状況に応じて設定してください。

各種設定

【画面サイズ】

QosmioPlayer (TV) での画面サイズを設定します。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[各種設定] → [画面サイズ] を選択してください。

次のいずれかを設定できます。

- ・ノンリニアスケーリング : 通常 (4:3) のテレビをディスプレイのサイズに合わせて全画面表示にしたサイズ
- ・ズーム : 通常 (4:3) のテレビの画面の一部を拡大して表示したサイズ
- ・フル : 通常 (4:3) のテレビを 16:9 に拡張して表示したサイズ
- ・ノーマル : 通常 (4:3) のテレビと同じサイズ

画面サイズについての詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G10/2 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【ブザー設定】

QosmioPlayer を操作したときに、ビープ音を鳴らすかどうかを設定します。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[各種設定] → [ブザー設定] を選択してください。

「ON」、「OFF」のいずれかを設定できます。

【設定初期化】

* 録画中は、設定初期化を選択できません。録画を停止してから設定してください。

音量と輝度の設定以外は、すべて初期状態に戻します。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[各種設定] → [設定初期化] を選択してください。

各設定画面で次の操作または状態になった場合は、設定中の項目は保存されず、テレビ画面に戻ります。

- ・画面の明るさ調整
- ・音量の調整
- ・消音（ミュート）
- ・バッテリ残量の不足
- ・リモコンの [設定] ボタン、またはキーボードの[F2]キーを押した場合
- ・リモコンの [項目選択] ボタン、またはキーボードの[F9]キーか[TAB]キーを押した場合
- ・録画終了
- ・録画時のHDD 空き容量不足

また、各設定画面で次の操作を行うと、設定中の項目は保存されません。

- ・QosmioPlayer (CD) または QosmioPlayer (DVD) への切り替え
- ・QosmioPlayer (TV) の終了

2 テレビ映像の録画にあたって

視聴中のテレビ映像の録画方法については、『図解で読むマニュアル 手軽にAV機能を楽しむ』と「本節 ② QosmioPlayer の操作一覧」をご覧ください。

録画設定

* 録画中は、録画設定を選択できません。録画を停止してから設定してください。テレビ映像を録画するための設定ができます。

【録画モード】

テレビ映像を録画するとき、どのような画質で録画するかを設定します。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[録画設定] → [録画モード] を選択してください。メニューが表示され、次のいずれかを設定できます。

録画モード	ビットレート	画質	最長録画時間
・高画質	約 8Mbps	高	約 1 時間 10 分
・標準（標準値）	約 4Mbps	↑	約 2 時間 10 分
・長時間	約 2Mbps	低	約 4 時間

録画できる時間は、テレビ設定メニューの下に表示されます。録画可能な時間は、あくまでも目安であり、実際の録画時間とは異なる場合があります。

1 タイトルの最長録画時間は約 180 分ですので、録画モードが「長時間」でも 180 分を経過すると録画は停止します。

【HDDフォーマット】

録画したすべてのテレビ映像を消去します。HDD フォーマットを実行すると、今までにハードディスクに録画した番組はすべて消失します。よく確認してから実行してください。

[テレビ設定メニュー] 画面で、[録画設定] → [HDD フォーマット] を選択してください。確認のメッセージが 2 度表示され、2 度とも [はい] を選択するとフォーマットが実行されます。

3 ライブラリ

録画タイトルを一覧表示し、整理して管理することができます。

ライブラリが起動すると、録画タイトルが一覧表示されます。

参照 ライブラリの起動方法 「本節 ② QosmioPlayer の操作一覧」

タイトルには、チャンネル、録画開始日時、録画時間、画質が表示されます。また、録画中のタイトルには録画アイコン（●）が表示されます。タイトルは、新しいものが上から順に表示されます。



(表示例)

ライブラリでは、QosmioPlayer で使用できるハードディスクの空き容量と総容量が表示されます。

最大 10 タイトルまで録画することができますが、ハードディスクの空き容量により、録画できるタイトル数は異なります。

【録画タイトルの削除】

録画したテレビ映像のタイトルを削除するには、ライブラリを表示させた状態で、次のように操作してください。

リモコン

矢印ボタンで削除したいタイトルにカーソルを合わせて [決定] ボタンを押し、表示された画面で [削除] にカーソルを合わせて [決定] ボタンを押す
確認の画面が表示され、「[はい]」を選択するとタイトルは削除されます。



①②キーで削除したいタイトルにカーソルを合わせ、③DELキーを押す
確認の画面が表示され、「[はい]」を選択するとタイトルは削除されます。

録画中のタイトルは、削除することができません。録画をいったん停止してから削除してください。

4 録画したテレビ映像の再生

通常の録画再生以外にも、「追っかけ再生」や「お好み再生」などができます。

メモ

- モノラル音声を録画した場合は、左チャンネルと右チャンネル両方に同じ音声が記録されます。
- 二ヶ国語放送を録画した場合、再生音は「主音声」と「副音声」が同時に 출력されますので、[音声／音多] ボタン（リモコン）または④キー（キーボード）を押して、出力する音声を選択してください。
- 録画タイトルの再生中は、「主」「副」の表示は行われません。二ヶ国語放送およびモノラル放送を録画したタイトルでも「L」「R」で表示されます。

【録画タイトルの再生（通常再生）】

録画したテレビ映像を再生するには、ライブラリを表示させた状態で、次のように操作してください。



矢印ボタンで再生したいタイトルにカーソルを合わせ、[再生／一時停止] ボタンを押す
キーボードからの操作については、「本節 ② QosmioPlayer の操作一覧」を参照してください。

【追っかけ再生】

録画中に、録画を開始した場面から再生できます。次のように操作してください。



録画中に [タイムシフト] ボタンを押す



録画中に①CTRL+②Tキーを押す

画面に追っかけ再生アイコン（）が表示され、追っかけ再生が開始されます。[表示] ボタン（リモコン）または③キー（キーボード）を押して、情報を常時表示している状態にすると、画面左上には再生時間のカウンタと録画時間のカウンタが表示されます。

1回押すと追っかけ再生が開始され、もう1回押すと停止します。[停止] ボタン（）または $(\text{CTRL})+(\text{SPACE})$ キー（）を押しても停止します。停止すると、録画中の映像に戻ります。

【お好み再生】

視聴中のテレビ映像を一時的にハードディスクに録画し、後で再生することができます。テレビ視聴を一時的に中断したいときなどに便利な機能です。

お好み再生をするには、まずテレビ映像を一時的に録画します。次のように操作してください。



テレビ視聴中に [タイムシフト] ボタンを押す



テレビ視聴中に $(\text{CTRL})+(\text{T})$ キーを押す

画面にお好み再生アイコン（）が表示され、録画が開始されます。[表示] ボタン（）または (D) キー（）を押して、情報を常時表示している状態にすると、画面左上には、録画時間のカウンタが表示されます。1回押すと映像を一時停止して録画を開始し、もう1回押すと録画を停止します。

録画しながら、一時停止して録画した場面から映像を再生するには、次のように操作してください。



[再生／一時停止] ボタンを押す



(SPACE) キーを押す

録画した映像が録画開始時点から再生されます。画面左上には、再生時間のカウンタが表示されます。

再生を停止するには、次のように操作してください。



[停止] ボタンまたは [タイムシフト] ボタンを押す



$(\text{CTRL})+(\text{SPACE})$ キーまたは $(\text{CTRL})+(\text{T})$ キーを押す

お好み再生、追っかけ再生機能は、録画時間に完全に追いつくことはできません。早送り、スキップは、録画時間の2～3秒手前に戻ります。

4) QosmioPlayer (CD)

ここでは、「本節 ② QosmioPlayer の操作一覧」で紹介した、CD 機能に関する操作の補足や、その他の機能について説明します。

【再生モードの変更】

音楽 CD を聴くとき、次のの中から再生モードを選択できます。

再生モード	切り替えキー	内 容
通常再生	—	CD の 1 曲目から順番に最後の曲まで再生する
1 曲リピート*1	(CTRL)+(R)	現在選択されている曲を、繰り返し再生する
Disc リピート*1	(CTRL)+(R)	CD の 1 曲目から順番に最後の曲まで再生した後、また 1 曲目から繰り返し再生する
シャッフル再生*2	(CTRL)+(S)	CD に収録されている通りではなく、曲の順番を入れ替えて再生する

* 1 (CTRL)+(R)を 1 回押すごとに、次のように切り替わります。

通常再生 (標準値) → 1 曲リピート → Disc リピート → 通常再生 …

* 2 (CTRL)+(S)を 1 回押すごとに、入れ替えて再生する／しないが切り替わります。

5) QosmioPlayer (DVD)

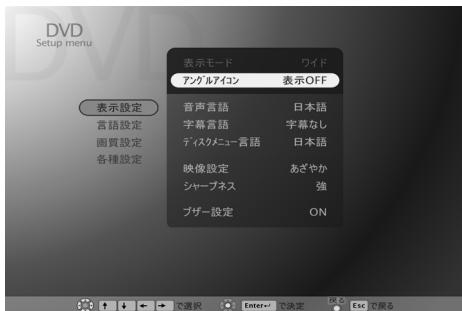
ここでは、「本節 ② QosmioPlayer の操作一覧」で紹介した、DVD 機能に関する操作の補足や、その他の機能について説明します。

1 DVD設定

DVD 設定メニューでは、DVD を再生するうえでのさまざまな設定をすることができます。

DVD 設定メニューを起動するには、次のように操作してください。

- 1 リモコンの【設定】ボタン、またはキーボードの[F2]キーを押す
DVD の設定メニュー画面が表示されます。



画面下部のキー操作表示を参照して、設定したい項目を選択してください。

DVD 設定メニューを終了して DVD 再生に戻るには、リモコンの【設定】ボタン、またはキーボードの(F2)キーを押してください。

設定できる項目は、次のようになっています。

表示設定

QosmioPlayer (DVD) で DVD を再生する場合の画面表示について、次の設定ができます。

【表示モード】

本製品では対応しておりません。

【アングルアイコン表示】

マルチアングルを示すアイコンを、画面に表示するかどうかを設定します。アイコンを表示するように設定しておくと、マルチアングルが用意されているシーンを再生しているときに、アングルの切り替えができる場合は、画面にアイコンが表示されます。

表示 ON : アイコンを表示する

表示 OFF (標準値) : アイコンを表示しない

言語設定

* DVD 再生中は、DVD 設定メニュー画面からの設定はできません。再生を停止してから設定してください。

QosmioPlayer (DVD) で DVD を再生する場合の言語について、設定できます。本機能は QosmioPlayer (DVD) の初期設定です。再生する DVD にあらかじめ音声、字幕、ディスクメニュー言語が設定されている場合は、その設定が優先されます。

言語コードの入力画面では、「付録 3 言語コード一覧」を参照して、設定したい言語の言語コードを入力してください。

タイトルに設定した言語が含まれていない場合には、タイトルが指定する言語が使用されます。また、タイトルによっては、使用する言語を変更するものがあり、ここで設定された言語が使用されないことがあります。

【音声言語】

複数の言語の音声が用意されている DVD を再生する際の、音声言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生する DVD によって異なります。

日本語（標準値）：日本語の音声を再生する

その他 : 設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を設定したい場合に選択してください。

【字幕言語】

複数の言語の字幕が用意されている DVD を再生する際の、字幕言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生する DVD によって異なります。

日本語 : 日本語の字幕を表示する

その他 : 設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を字幕表示させたい場合に選択してください。

字幕なし（標準値）：字幕を表示しない

【ディスクメニュー言語】

複数の言語のディスクメニューが用意されている DVD を再生する際の、メニュー言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生する DVD によって異なります。

日本語（標準値）：日本語のメニューを表示する

その他 : 設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を設定したい場合に選択してください。

画質設定

DVD再生時の画質について設定します。

【映像設定】

映像のタイプを設定します。

「あざやか」、「標準」、「映画」、「好み」のいずれかを設定できます。

「好み」を選択すると、明るさ、色合い、コントラスト、濃さを好みに合わせて調整できます。

【シャープネス設定】

映像の境界を強調し、くっきりした映像にします。

「強」、「中」、「弱」のいずれかを設定できます。

各種設定

【ブザー設定】

QosmioPlayerを操作したときに、ビープ音を鳴らすかどうかを設定します。

「ON」、「OFF」のいずれかを設定できます。

2 DVDの再生

ここでは、「本節 ② QosmioPlayerの操作一覧」で紹介した、DVDの再生操作以外の、再生に関する操作を説明します。

【DVDメニュー選択】

DVDのメニューを表示し、再生したいタイトルやチャプタを選択するには、次のように操作してください。

 DVDメニューの表示方法 「本節 ② QosmioPlayerの操作一覧」

リモコン

矢印ボタンで選択し、[決定] ボタンで再生を開始する

キーボード

矢印キーで選択し、[ENTER]キーで再生を開始する

DVDには構造によってさまざまなメニューが用意されています。この操作をしたときに表示されるメニューは、DVDによって異なります。

【続き再生】

前回再生を停止した場面から、その続きを再生できます。画面に「[再生] を押すと、続き再生」と表示されている状態で、次のように操作してください。



[再生 / 一時停止] ボタンを押す



(SPACE)キーを押す

次のような場合は、続き再生できません。

- ・電源を切った
 - ・QosmioPlayer (TV) を起動した
 - ・前回再生停止した後、設定メニューから設定を変更した
 - ・DVD をドライブから取り出した
 - ・再生しているDVDが、続き再生機能に対応していない
- など

【再生するタイトルの選択】

再生するタイトルを選択するには、次のように操作してください。



(①)キーを押した後、再生したいタイトル番号の数字キーを押す

停止中に(①)キーを押した場合は、タイトル番号を入力した後、(ENTER)キーを押します。

再生するDVDによっては、本機能は動作しない場合があります。

【再生アングルの選択】

DVDによっては、複数のカメラアングル（角度）からの映像が用意されています。このアングルを切り替えて再生するには、DVD再生中に次のように操作してください。



[アングル] ボタンを押す



(②)キーを押す

現在のアングル番号が表示されます。アングル番号が表示されているときにこの操作をすると、1回押すごとに、DVDに用意されているアングルが切り替わります。アングル番号は、操作してから数秒たつと消えます。



- ・DVDによっては、アングルを切り替えてもすぐに映像が切り替わらない場合があります。
- ・早送りまたは早戻し中は、アングルを切り替えることができません。

【字幕の選択】

DVDによっては字幕が用意されていて、再生画面に表示できます。複数の言語で字幕が用意されているDVDの場合は、表示したい字幕を選択できます。

DVD再生中に次のように操作してください。



[字幕] ボタンを押す



(S)キーを押す

画面に現在の字幕情報が表示されます。1回押すごとに、DVDに用意されている字幕が切り替わります。字幕なしにすることもできます。

メモ

- DVDによっては、自動的に字幕が表示されます。
- 再生している場面によっては、字幕表示の操作をしてもすぐには字幕が表示されないことがあります。
- DVDによっては、字幕の言語や表示／非表示の切り替えを、ディスクメニューで選択できます。

【音声を切り替える】

DVDによっては、複数の音声（吹き替え）が用意されています。音声を切り替えるには、DVD再生中に次のように操作してください。



[音声／音多] ボタンを押す



(A)キーを押す

画面に現在の音声情報が表示されます。1回押すごとに、DVDに用意されている音声が切り替わります。

メモ

- DVDによっては、音声の言語の切り替えを、ディスクメニューで選択できます。

6 QosmioPlayer の再インストール

QosmioPlayer は、購入時の状態では本製品にプレインストールされています。QosmioPlayer を削除してしまった場合の復元方法と、アップデートや削除の方法について説明します。

メモ

- QosmioPlayer の再インストールを行うと、各種設定値が初期状態に戻ります。

ハードディスク 2 台内蔵モデルでは、2 台のうち、購入時の状態で、最初に起動するように設定されているハードディスク（HDD1）だけに再インストールされます。

【必要なもの】

- QosmioPlayer のリカバリ CD *¹
- 『応用にチャレンジ』（本書）、『さあ始めよう』、『困ったときは』

*¹ QosmioPlayer のリカバリ CD は、あらかじめ作成しておく必要があります。

 作成方法 『困ったときは 2 章 4 システム復元ツールのバックアップをとる』

QosmioPlayer をアップデートする場合は、次の 2 つの方法があります。

- ① Windows からのアップデート
- ② QosmioPlayer のリカバリ CD を使用したアップデート

Windows からアップデートする場合は、プログラムをホームページからダウンロードする必要があります。詳細は弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」をご覧ください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/download/index_j.htm

 『困ったときは 1 章 1-④ 本製品のサポート情報を見る』

QosmioPlayer のリカバリ CD を使ってアップデートする場合は、プログラムをホームページからダウンロードし、あらかじめアップデート CD を作成する必要があります。詳細は弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」をご覧ください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/download/index_j.htm

 『困ったときは 1 章 1-④ 本製品のサポート情報を見る』

1 操作手順

お願い

- QosmioPlayerの復元または削除を行うと、録画タイトルがすべて削除されます。必要なタイトルは「QosmioPlayer転送ユーティリティ」を使用して、必ず保存しておいてください。

参照 ➤ 「本節 ⑦ 録画データを Windows 上へ転送する」

1 AC アダプタと電源コードを接続し、QosmioPlayer のリカバリ CD をセットして、パソコンの電源を切る

参照 ➤ CD のセット 『さあ始めよう 2 章 4-① CD／DVD のセット』

2 キーボードの[F12]キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

3 [→]または[←]キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押す

[QosmioPlayer の復元を開始します。] 画面が表示されます。

そのまま待つと、「復元方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

**4 購入時の状態に復元する場合は①キーを、QosmioPlayer を録画領域なしで復元する場合は②キーを、QosmioPlayer をアップデートする場合は③キーを、QosmioPlayer を削除する場合は④キーを、QosmioPlayer の録画領域を削除する場合は⑤キーを押す
⑥キーを押すと、何もしないで終了します。**

【①キーを押した場合】

「QosmioPlayer を復元中です。」という復元中のメッセージが表示された後、しばらく待つと、「QosmioPlayer の復元が完了しました。」という終了のメッセージが表示されます。

何かキーを押して終了してください。

- エラーメッセージが表示された場合

「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【②キーを押した場合】

「録画領域がない場合、録画が行えません。」という録画領域がない状態で復元を行うか確認するメッセージが表示されます。

ここで \textcircled{Y} キーを押してしばらく待つと、「QosmioPlayer の復元が完了しました。」という終了のメッセージが表示されます。

何かキーを押して終了してください。

- エラーメッセージが表示された場合

「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【③キーを押した場合】

「QosmioPlayer のアップデート CD を挿入してください。」というメッセージが表示されます。

ドライブにアップデートCDをセットし、 (ENTER) キーを押してください。

しばらく待つと、「QosmioPlayer のアップデートが完了しました。」という終了のメッセージが表示されます。

何かキーを押して終了してください。

- QosmioPlayer がインストールされていない場合

QosmioPlayer がインストールされていないと、アップデートはできません。削除してしまった場合は、アップデートしようとすると「QosmioPlayer がインストールされていません。」というメッセージが表示されます。先に QosmioPlayer を購入時の状態に復元してから、アップデートしてください。

- エラーメッセージが表示された場合

「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【④キーを押した場合】

「QosmioPlayer の削除を開始します。」という削除の確認メッセージが表示されます。
ここで④キーを押してしばらく待つと、「QosmioPlayer の削除が完了しました。」
という終了のメッセージが表示されます。

何かキーを押して終了してください。

- エラーメッセージが表示された場合

「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【⑤キーを押した場合】

「録画領域がない場合、録画が行えません。」という録画領域削除の確認メッセージ
が表示されます。

ここで④キーを押してしばらく待つと、「QosmioPlayer の録画領域削除が完了し
ました。」という終了のメッセージが表示されます。

何かキーを押して終了してください。

- エラーメッセージが表示された場合

「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

お願い

- 録画領域を削除すると、録画領域分のハードディスク領域が使用可能になります（このとき、この領域は Windows の「ディスク管理」では「未割り当て」の領域として表示されます）。この状態で Windows の「ディスク管理」などを使用して録画領域の位置に新たにパーティションを作成した場合、または Windows を再インストールした場合、QosmioPlayer を購入時の状態に復元
することができなくなります。

【エラーメッセージ】

操作中に次のようなメッセージが表示された場合は、右側に記載している対処方法を実行してください。

メッセージ	対処方法
QosmioPlayer の復元中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、QosmioPlayer の復元を最初からやり直してください。
QosmioPlayer のアップデート中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、QosmioPlayer のアップデートを最初からやり直してください。
QosmioPlayer の削除中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、QosmioPlayer の削除を最初からやり直してください。
録画領域を確保するのに十分なハードディスクの空き領域が不足しています。	ハードディスクの終端に使用されていない 5GB 以上の未割り当て領域がないと、QosmioPlayer の復元はできません。何かキーを押して終了し、Windows の「ディスク管理」を使って不要なパーティションを削除し、ハードディスクに未割り当て領域を確保してから復元をやり直してください。
ハードディスクの空き領域が不足しています。ハードディスクに使用されていない 100MB 以上の空き領域を準備して、もう一度復元をやり直してください。	ハードディスクの終端に使用されていない 100MB 以上の未割り当て領域がないと、QosmioPlayer を録画領域なしで復元はできません。何かキーを押して終了し、Windows の「ディスク管理」を使って不要なパーティションを削除し、ハードディスクに未割り当て領域を確保してから復元をやり直してください。
この機種はサポートしていません。	使用しているパソコンは、QosmioPlayer に対応していません。QosmioPlayer の復元はできません。

お願い

- パーティションを削除すると、保存したデータが削除されますので、必要なデータは必ずバックアップをとってください。

7 録画データをWindows上へ転送する

QosmioPlayerで録画したデータはそのままではWindows上で使用できませんが、「QosmioPlayer転送ユーティリティ」を利用すると、データをWindows上へ転送して使用することができます。

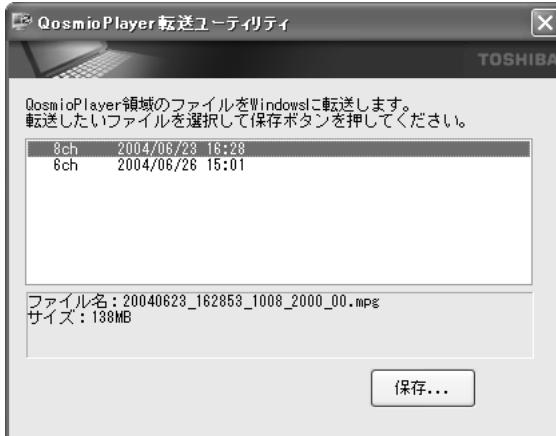
お願い

- ● 録画データの転送中は、スタンバイや休止状態にしないでください。
- ● 録画データの転送を行う場合は、コンピュータの管理者アカウントが必要です。必ず、コンピュータの管理者アカウントでログオンしてから、録画データの転送を行ってください。
- ● ハードディスクを頻繁に使うアプリケーション（「ディスクデフラグ」など）を録画データの転送中に使用しないでください。録画データの転送に失敗する場合があります。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [QosmioPlayer転送ユーティリティ] をクリックする

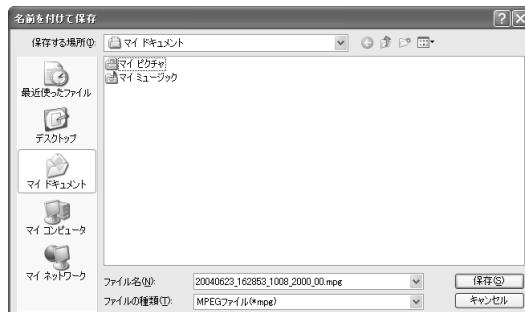
[QosmioPlayer転送ユーティリティ]画面が表示されます。

録画したタイトルがそのままファイル名として、一覧表示されます。



2 ファイル名を選択し、[保存] ボタンをクリックする

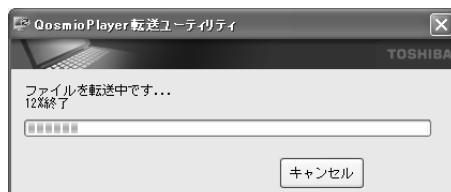
[名前を付けて保存] 画面が表示されます。



(表示例)

3 保存先を選択し、[保存] ボタンをクリックする

ファイルの転送が開始され、「ファイルを転送中です…×× % 終了」というメッセージと進行状況を示すグラフが表示されます。



中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。録画データの転送を途中で中止した場合は、途中まで転送したファイルが保存されます。終了すると、「転送が完了しました。」というメッセージが表示されます。

4 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[QosmioPlayer 転送ユーティリティ] 画面に戻ります。続けて、別のファイルの転送を行う場合は、手順2から操作を繰り返してください。ファイルの転送を終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックしてください。

メモ

- 録画データの転送に失敗した場合は、再度転送を実行してください。

5 リモコン

本製品には、リモコンが同梱されています。リモコンを使って、離れた場所からパソコンの機能の一部を操作することができます。

1) リモコンについて

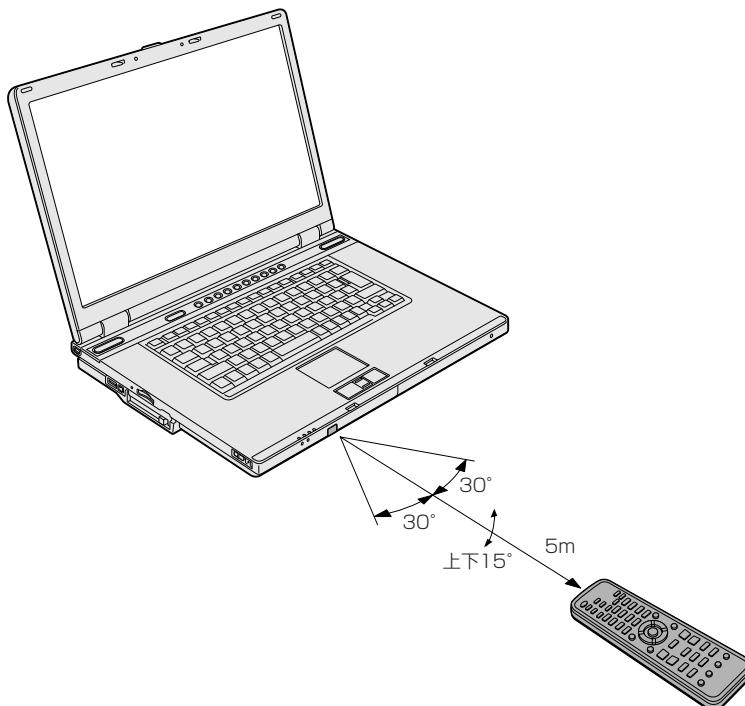
お願い 操作にあたって

- ・リモコンは本製品専用です。
- ・アプリケーションのなかには、リモコン操作に対応していないものもあります。

【使用範囲】

パソコン本体に向けてリモコンの操作ボタンを押します。使用範囲は、次の距離と角度を目安にしてください。

距離	赤外線受光窓正面より約 5m 以内
角度	赤外線受光窓正面より左右約 30 度以内、上下約 15 度以内



【使用時の注意】

使用範囲内でも、次のような場合はリモコンが誤動作したり操作できない場合があります。

- パソコン本体とリモコンの間に障害物があるとき
- 赤外線受光窓に直射日光や蛍光灯の強い光があたっているとき
- 赤外線受光窓、またはリモコンの発光部が汚れているとき
- 本製品とリモコンが複数台あるとき
- 電池が消耗してきたとき

2) 電池の取り付け／取りはずし

リモコンをご使用になる前に、必ず同梱の乾電池を取り付けてください。

⚠ 警告

- リモコンに使用している電池は、幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注意

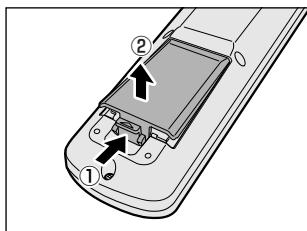
- リモコンに使用している電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
 - ・指定以外の電池は使用しない
 - ・極性表示 [(+) と (-)] を間違えて挿入しない
 - ・充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れない
 - ・乾電池に表示されている [使用推奨期限] を過ぎたり、使い切った乾電池はリモコンに使用しない
 - ・種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない
 - ・金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に携帯、保管しない
 - ・使用済みの乾電池は、電極 [(+) と (-)] にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って保管、廃棄すること
- これらを守らないと、発熱・液もれ・破裂などにより、やけど、けがの原因となります。もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い医師の治療をうけてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないでふき取ってください。

【使用できる乾電池】

同梱されている乾電池が消耗した場合は、市販の電池と交換してください。使用できる電池は、単3形マンガン電池、単3形アルカリ電池または単3形オキシライド電池（2本）です。その他の電池は使用できません。

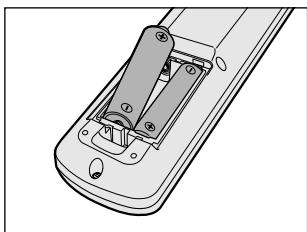
1 取り付け

1 リモコン裏側の電池カバーをあける



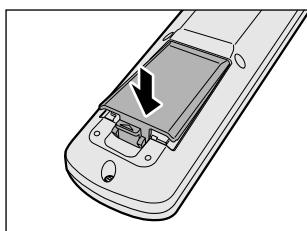
ツメ部分を矢印の方向に押しながら①、あけます②。

2 電池をセットする



+（プラス）、-（マイナス）をよく確認してセットしてください。

3 電池カバーをしめる



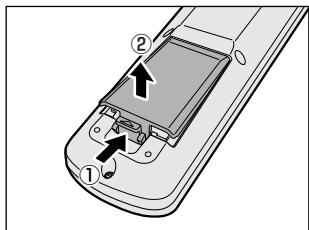
「カチッ」という音がするまで押してください。

2 取りはずし

リモコンに使用している電池が消耗すると、リモコン操作ができなかったり、到達距離が短くなります。その場合は、使用できる乾電池をお確かめのうえ購入いただき、次のように電池を取りはずしてから、新しい電池を取り付けてください。

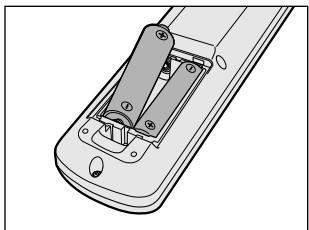
参照 ➤ 使用できる乾電池について「本項 使用できる乾電池」

1 リモコン裏側の電池カバーをあける



ツメ部分を矢印の方向に押しながら①、あけます②。

2 電池を取り出す



3 リモコンの各部名称

リモコンの各ボタンの名称と機能は、次のようにになっています。対応する番号の説明を参照してください。それぞれの機能の詳細は、各アプリケーションの説明をご覧ください。



「WinDVR」について

『図解で読むマニュアル』、『InterVideo WinDVR』のヘルプ

「WinDVD」について

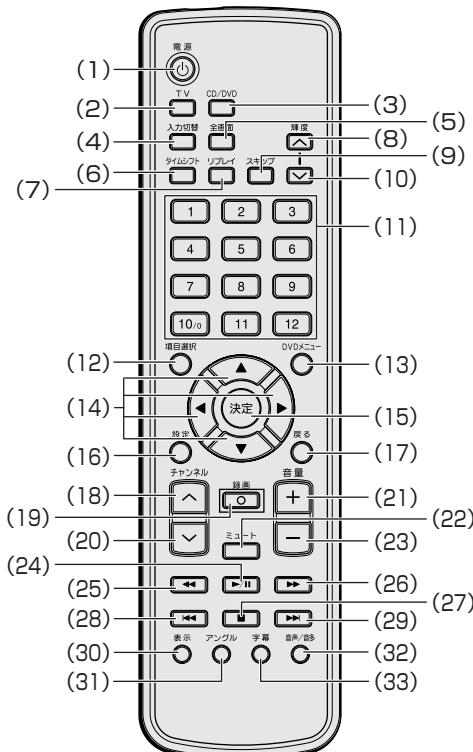
『図解で読むマニュアル』

「Windows Media Player」について

《サイバーサポート（検索）：音楽CDやファイル、ムービーを再生したい》

QosmioPlayerについて

「本章 4 QosmioPlayer」



(1)電源

OS の起動／終了、QosmioPlayer の終了

(2)TV

「WinDVR」の起動／終了、QosmioPlayer (TV) の起動

(3)CD/DVD

「QosmioUI」、QosmioPlayer (CD)、QosmioPlayer (DVD) の起動

(4)入力切替

映像入力信号（テレビアンテナ／モニタ入力端子／S-Video）を切り替える

(5)全画面

Windows 上で、テレビ／DVD の映像を全画面表示にする。

または、QosmioPlayer (TV) において、画面サイズ（ノンリニアスケーリング／ズーム／フル／ノーマル）を切り替える

(6)タイムシフト

「WinDVR」のタイムシフト機能を実行する。または、QosmioPlayer (TV) で追っかけ再生／お好み再生を実行する

(7)リプレイ

録画再生または DVD 再生中に数十秒単位で戻す

(8)輝度△

本体液晶ディスプレイの輝度を明るくする

(9)スキップ

録画再生または DVD 再生中に数十秒単位でスキップする

(10)輝度▽

本体液晶ディスプレイの輝度を暗くする

(11)数字

テレビ視聴または CD ／ DVD 再生において、チャンネルやチャプタ番号を選択する

[10/O] ボタンは「0 (ゼロ)」、QosmioPlayer (TV) では「10」として動作します。[11]、[12] ボタンは QosmioPlayer (TV) でのみ動作します。

2 衡以上のチャプタ番号を選択する場合は、数字ボタンを 1 つずつ押してください。例えば、「10」を選択するときは [1]、[10/O] の順に押します。

(12)項目選択

QosmioPlayer (TV) でライブラリを表示する。または、「WinDVR」、「WinDVD」、「Windows Media Player」の各メニューにおいて、項目を移動してカーソルをあわせる

(13)DVD メニュー

DVD 再生において、トップメニューを表示する

(14)矢印

項目を移動してカーソルをあわせる

(15)決定

項目を決定する ((ENTER)キーと同等)

(16)設定

テレビ視聴またはDVD再生において、設定メニューを表示するまたは非表示にする

(17)戻る

テレビ視聴またはDVD再生において、直前の操作をキャンセルする ((ESC)キーと同等)

DVD再生においてDVDで指定された画面に戻ります（リターン）。リターンについて詳しくは、再生するDVDに付属の説明書をあわせてお読みください。

(18)チャンネル△

テレビ視聴において、チャンネルを1つ進める

(19)録画

「WinDVR」またはQosmioPlayer（TV）において、録画を開始する

(20)チャンネル▽

テレビ視聴において、チャンネルを1つ戻す

(21)音量+

テレビ視聴またはCD／DVD再生において、音量を上げる

(22)ミュート

テレビ視聴またはCD／DVD再生において、消音（ミュート）する

(23)音量-

テレビ視聴またはCD／DVD再生において、音量を下げる

(24)再生／一時停止

CD／DVD再生／QosmioPlayer（TV）の録画再生において、再生／一時停止する

(25)早戻し

DVD再生／QosmioPlayer（TV）の録画再生において、映像を早戻しする。

またはQosmioPlayer（CD）において、約10秒戻す

(26)早送り

DVD再生／QosmioPlayer（TV）の録画再生において、映像を早送りする。

またはQosmioPlayer（CD）において、約10秒スキップする

(27)停止

音楽／映像の再生、または録画を停止する

(28)逆送り

CD／DVD 再生において、1つ前の曲またはチャプタ（もしくは、チャプタの先頭）を再生する

(29)先送り

CD／DVD 再生において、次の曲またはチャプタを再生する

(30)表示

QosmioPlayer 機能において、画面表示を切り替える

(31)アングル

DVD 再生において、再生画像のアングルを切り替える

(32)音声／音多

テレビ視聴またはDVD 再生において、音声の言語や音質を切り替える

(33)字幕

DVD 再生において、字幕の言語や表示／非表示を切り替える

リモコンの操作を無効にする

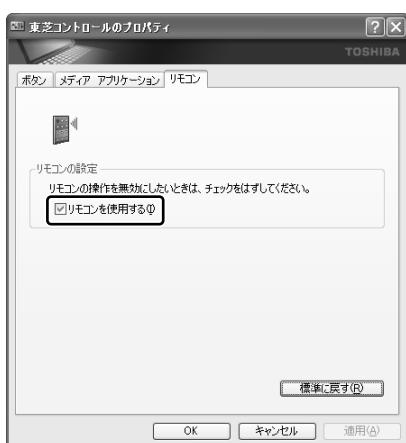
次の手順でリモコンの操作を無効にすることができます。

1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

2 [東芝コントロール] をクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [リモコン] タブで [リモコンを使用する] のチェックをはずす



リモコンで操作を行うときは、
チェックをつけます。

4 [OK] ボタンをクリックする

お願い リモコンの取り扱いと手入れ

リモコンを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- 分解しないでください。

6 ディスプレイ

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1440×900ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
「3章 5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677万色
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1440 × 900 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1440×900ドットより大きな解像度（1280×1024ドットも含む）は仮想スクリーン表示になります。

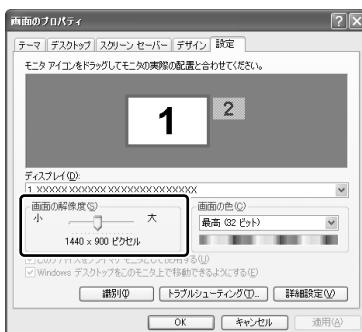
メモ

- 本体液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 本体液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱいに大きく表示されます。本体液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。外部ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [画面] をクリックする**
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する**



(表示例)

- 3 [OK] ボタンをクリックする**

2) 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。初期状態では、「8」（最高輝度）に設定されています。明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。

【輝度の調整方法】

- 本体の輝度ボタンを使う

参照 「本章 2 フロントオペレーションパネル」

- [FN]+[F6]キーまたは[FN]+[F7]キーを使う

参照 《サイバーサポート（検索）：[FN] キーを使った特殊機能キー》

- リモコンの [輝度▲] ボタンまたは、[輝度▼] ボタンを使う

参照 「本章 5-③ リモコンの各部名称」

3) 高画質化処理

本製品には、DVD やテレビ、ビデオカメラの映像を再生するときに高画質化処理を行う機能（QosmioEngine）が搭載されています。

1 高画質化処理を行うには

次の状態のときに自動的に高画質化処理が行われます。切替えの操作は必要ありません。

- QosmioPlayer (DVD) を使用して、DVD を再生しているとき

参照 QosmioPlayer (DVD) 「本章 4-⑤ QosmioPlayer (DVD)」

- 「WinDVD」を使用して、全画面表示でDVDを再生しているとき

参照 WinDVD 『図解で読むマニュアル DVD の映画や映像を見る』

- ビデオカメラなどの映像をモニタ入力モードで再生しているとき

参照 モニタ入力モード「3章 6 モニタ入力を使う」

- QosmioPlayer (TV) を使用して、テレビを見ているとき

参照 QosmioPlayer (TV) 「本章 4-③ QosmioPlayer (TV)」

- 「WinDVR」を使用して、全画面表示でテレビを見ているとき

参照 WinDVR 『図解で読むマニュアル テレビを見る／番組を録画する』

- ビデオカメラの映像を「WinDVR」を使用して再生しているとき

 ビデオカメラの接続

「3章 9-4 アナログのビデオカメラやビデオデッキなど」

お願い

- 「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用した場合は、高画質化処理を行わない通常表示になります。なお、DVD-Videoの再生にあたっては『図解で読むマニュアル DVDの映画や映像を見る』に記載の注意事項もあわせてお読みください。
- 「WinDVD」「WinDVR」を使用して映像を再生しているとき、字幕などの文字情報が粗く表示される場合があります。
- 全画面表示で「WinDVD」「WinDVR」を使用すると、操作パネルも拡大表示される場合があります。
- QosmioPlayer (DVD)、QosmioPlayer (TV)、「WinDVD」「WinDVR」を使用して映像を再生しているとき、再生しているデータにノイズがある場合は、強調して表示されます。

表示の対応

高画質化処理を行った表示は、本体液晶ディスプレイのみ対応しています。パソコン本体にテレビや外部ディスプレイを接続し、同時表示に設定している場合、テレビや外部ディスプレイは高画質化処理を行わない通常表示です。映像再生中の表示は次のような対応です。

 テレビや外部ディスプレイの接続

「3章 4 テレビを接続する」「3章 5 外部ディスプレイを接続する」

◎：高画質化処理を行った表示 ○：高画質化処理を行わない通常表示
△：表示装置によって異なる ×：表示しない

	QosmioPlayer (DVD) 使用中	QosmioPlayer (TV) 使用中	WinDVD 使用中 (全画面表示)	WinDVR 使用中 (全画面表示)	モニタ入力モード
本体液晶ディスプレイ	◎	◎	◎	◎	◎
テレビ	×	×	○	○	△*2
外部ディスプレイ	×	×	○	○	△*2
同時表示	×*1	×*1	○*1	○*1	△*2

- * 1 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定したときのテレビ、または外部ディスプレイの表示状態を示します。
- * 2 Windows起動後、モニタ入力モードに切り替えたときは、テレビ、外部ディスプレイにはWindows画面が表示されます。この場合の表示は、高画質化処理を行わない通常表示です。同時表示の場合、本体液晶ディスプレイには接続した機器の映像を高画質化処理を行って表示されますが、テレビや外部ディスプレイには、Windows画面が通常表示で表示されます。

2 映像調整ユーティリティ

映像を見る環境にあわせて、映像モードの変更を行うことができます。この設定は、表示装置が本体液晶ディスプレイのみで、「WinDVD」、「WinDVR」を使用して全画面表示で映像を再生しているときに有効です。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [映像調整ユーティリティ] をクリックする

デスクトップ上の [映像調整ユーティリティ] アイコンをダブルクリックしても起動できます。

[映像調整ユーティリティ] 画面が表示されます。



2 [映像調整機能] を「ON」にする

3 [基本設定] で「あざやか」、「標準」、「映画」のいずれかを選択する

4 [シャープネス] で「弱」、「中」、「強」のいずれかを選択する

5 [AIシーンコントロール] で「ON」、「OFF」のいずれかを選択する

ここで設定は、QosmioPlayer (TV、DVD) にも有効となります。

6 [ノンリニアスケーリング] で「ON」、「OFF」のいずれかを選択する

7 [適用] または [OK] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

8 [OK] ボタンをクリックする**9 [映像調整ユーティリティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする**

次回、「WinDVD」や「WinDVR」を使用して全画面表示で映像を再生するときは、設定した映像モードで再生します。

3 モニタ入力設定

ビデオカメラやゲーム機器などの機器と接続して本体液晶ディスプレイに映像を表示する場合に、モニタ入力の方法を設定します。

1 [映像調整ユーティリティ] 画面で [モニタ入力設定] ボタンをクリックする

[モニタ入力設定] 画面が表示されます。

**2 [端子の形状] で「モニタ入力端子」または「S 端子」を選択する**
接続する端子を選択します。**3 [信号パターン] で「NTSC」または「PAL」を選択する**

選択した信号パターンで表示を行います。

「NTSC」を選択して PAL 信号を入力したり、「PAL」を選択して NTSC 信号を入力すると、正しく表示されません。

4 [OK] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

1 「映像調整ユーティリティ」を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが  に変わります。**2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする**

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布でふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
 - 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
- 液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

7 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

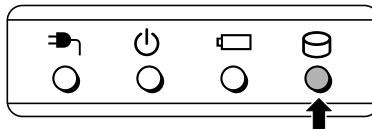
PC カードタイプ (TYPE II) や、USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD／DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

8 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

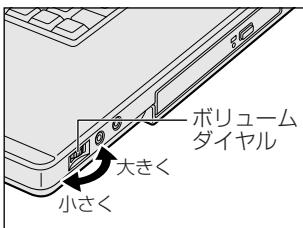
1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD プレーヤー	音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] で表示項目を確認する
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク]：マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

2 光デジタルオーディオ出力端子経由で録音するとき

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音する場合は、あらかじめボリュームダイヤル、またはボリュームコントロールの [WAVE] など、各ソース用のコントロールで再生している音量を調節しておきます。

メモ

- 音量を最小にしたり、ミュート(消音)にすると、光データは出力されません。
- ボリュームダイヤルでは、本体のスピーカからの音量のみを調節できます。
- デジタル出力が無効に設定されていると、光データは出力されません。
次の手順で、デジタル出力を有効にしてください。
 - ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
 - ② メニューバーの [オプション] → [トーン調整] をクリックする
 - ③ [トーン] ボタンをクリックする
 - ④ [AC3 SPDIF] または [PCM SPDIF] をチェックする
[AC3 SPDIF] は、多チャンネル（5.1 チャンネル）の DVD の場合に、
[PCM SPDIF] は、2 チャンネルの DVD（リニア PCM 形式）の場合に
設定してください。

 ボリュームコントロールについて
「本節 ① スピーカの音量を調整する」

3 サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネージメント機能を設定できるようになっています。

この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。購入時は、本機能が有効に設定されています。

消費電力の節約の程度は、バッテリの状態によって異なります。

1 サウンドコントローラの起動方法

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ サウンド、音声、およびオーディオデバイス] をクリックする
- 3 [ SoundMAX] をクリックする

2 パワーマネージメントの設定方法

1 [SoundMAX コントロールパネル] 画面で [電源管理] タブの [パワーモード] で設定したいモードを選択する



【パワーモード】

- パワーセービング解除
パワーセービングを解除します。
- ノーマル・パワーセービング
一定時間、サウンドコントローラが使われていないと、自動的にパワーセービングを行います。
- ハイ・パワーセービング
[タイマー設定] で、パワーセービングを行う時間を設定することができます。

2 [OK] ボタンをクリックする

4 マイクの設定を行う

本製品では、マイクから録音するときの設定を行うことができます。

[SoundMAX コントロールパネル] 画面の [マイク] タブで設定します。

参照 ➤ [SoundMAX コントロールパネル] 画面の起動
「本節 ③-1 サウンドコントローラの起動方法」



【マイクの設定】

使用しているマイクに適した入力状態を設定します。

- 標準マイク：本製品の内蔵マイクまたは通常のデスクトップ型マイクを使用している場合
- ヘッドセット：マイクが口の正面に位置する装着型マイクを使用している場合

5) DVD の音声形式を設定する

DVD の音声を聴くため形式を設定します。

- 1 [SoundMAX コントロールパネル] 画面で [全般] タブをクリックする



- 2 「AC3 SPDIF」と「PCM SPDIF」をチェックする

DVD の音声を聴く場合には、次のような設定が必要になります。

- AC3 SPDIF：多チャンネル（5.1 チャンネル）の DVD の音声を聴く場合に設定する
- PCM SPDIF：2 チャンネル（リニア PCM 形式）の DVD の音声を聴く場合に設定する

- 3 [OK] ボタンをクリックする

9 ドライブ

本製品には、DVD スーパーマルチドライブが 1 台内蔵されています。

ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R *、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

* 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL (Double Layer 対応) を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。

CD／DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video の再生は Region コード「2」、「ALL」のものをご使用ください。
リージョン

1) 使用できるメディアと対応するアプリケーション

お願い

- 書き込み中は、シャットダウン、ログオフ、スタンバイなどを実行しないでください。

書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

レコードナウ

- RecordNow!

参照 ➤ 『図解で読むマニュアル

オリジナル音楽CDを作る、データCD／DVDを作る』

『困ったときは 2章 3 CD／DVDにデータのバックアップをとる』

ディーエルエー
● DLA

参照 ➤ 『図解で読むマニュアル データをCD／DVDにコピーする』

《サイバーサポート（検索）：データをCD/DVDにコピーしたい》

● WinDVD Creator 2 Platinum
ウインディーブイディークリエイター プラチナム

参照 ➤ 『図解で読むマニュアル 映像を編集してDVDに残す』

『図解で読むマニュアル テレビ番組をDVDに直接録画する』

「InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum」のヘルプ

メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

使用できるメディア

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○*1	○*1	○*1	○*1	○*3	○*1	○*1
書き込み回数	1回	繰り返し 書換可能*2	1回	繰り返し 書換可能*2	1回	繰り返し 書換可能*2	繰り返し 書換可能*2

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 実際に書き換える回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

* 3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しができない場合があります。また追記したデータは読み出しません。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

○：使用できる ×：使用できない

【 RecordNow! 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○* ¹	○* ¹	○* ¹	○* ¹	×

* 1 DVD-Video、DVD-Audio の作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

【 DLA 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	○* ¹	×	○* ¹	×	○* ¹	×

* 1 新品の CD-RW、DVD-RW、DVD+RW を「DLA」で使用するためには、あらかじめフォーマットが必要です。

【 WinDVD Creator 2 Platinum 】

「WinDVD Creator2 Platinum」には、「プロジェクトモード」と「ディスクマネージャ」の2つのモードがあります。各モードで使用できるフォーマット（映像を書き込むときの記録形式）が異なります。

プロジェクトモード	DVD-Video フォーマット
ディスクマネージャ	DVD-Video フォーマット、-VR フォーマット、+VR フォーマット

モードとフォーマットによって、書き込みできるメディアの種類が異なります。

プロジェクトモード (DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	○	○	○* ¹	○	○* ²

* 1 DVD+R DL に書き込んだ場合、書き込みを行ったパソコンにインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。

* 2 DVD-Video フォーマットで記録された DVD-RAM は、本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。

ディスクマネージャ (DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	○* ¹	×	×	×

* 1 再生するためには、ファイナライズを行ってください。ディスクマネージャで作成したメディアのみ追記、再編集が可能です。

ディスクマネージャ (-VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	×	○

ディスクマネージャ (+VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	○* ¹	×

* 1 ディスクマネージャで作成したメディアのみ追記、再編集が可能です。

【[マイコンピュータ] 上で書き込む場合】

[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをメディアに書き込むことができます。^{*1} 書き込み可能なメディアは、CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM です。なお、これらのメディアはあらかじめフォーマットしておく必要があります。

* 1 CD-RW、DVD-RW、DVD+RWへの書き込みは、「DLA」を使用してください。

参照 ➔ CD-RW、DVD-RW、DVD+RW のフォーマット

『図解で読むマニュアル データを CD／DVD にコピーする』

《サイバーサポート（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい》

参照 ➔ DVD-RAM のフォーマット「本節 ④ DVD-RAM を使うときは」

2) 使用できる CD

【読み出しできる CD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用 CD

8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。

- フォト CD

普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。

- CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。

- CD エクストラ

記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。

- CD-R

- CD-RW

【書き込みできる CD】

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

- DVD スーパーマルチドライブ

CD-R メディア : 最大 24 倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。

マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速

High-Speed CD-RW メディア : 最大 10 倍速

Ultra Speed CD-RW メディア : 最大 10 倍速

Ultra Speed+CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-Rについて

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

CD-RW（マルチスピード、High-Speed）

：三菱化学メディア（株）、（株）リコー

CD-RW（Ultra-Speed）

：三菱化学メディア（株）

CD-R : 太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、

（株）リコー、日立マクセル（株）

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まず CD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」で CD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法

『困ったときは 3 章 その他-Q セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

③ 使用できるDVD

【読み出しができるDVD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD-RAM
- DVD+R、DVD+R DL
- DVD+RW

【書き込みができるDVD】

お願い

- 本製品のドライブでは、書き込み8倍速までのDVD-R／DVD+Rメディア、書き込み2.4倍速までのDVD+R DLメディアと、書き換え4倍速までのDVD-RW／DVD+RWメディア、書き換え3倍速までのDVD-RAMメディアを使用することができます。これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを用することはできません。

● DVD-R

書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。

● DVD-RW

DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠したメディアを使用してください。

● DVD+R、DVD+R DL

DVD+R DL (Double Layer)とは、DVD+Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。

既存の1層のDVD+Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2の5Mbpsの映像データで、1層のDVD+Rメディアの時間が約2時間分ならDVD+R DLは約3.6時間分の記録が可能になります。

● DVD+RW

● DVD-RAM

DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0または2.1規格に準拠したメディアを使用してください。

【DVD-RAMの種類】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

* 1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GBのディスクは書き込みできません。

お願い DVDについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

DVD-RAM：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）

DVD-RW：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）

DVD-R：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）

DVD+RW：三菱化学メディア（株）、（株）リコー

DVD+R：三菱化学メディア（株）、（株）リコー

DVD+R DL：三菱化学メディア（株）

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。

- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

 **エラーチェックの方法**

『困ったときは 3章 その他-Q セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア(for Authoring)と一般用メディア(for General)があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア(for General)を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディアを再生するときは、DVD+R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

4) DVD-RAMを使うときは

ここでは、DVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

参照 「本項 2-PDFマニュアルを見る方法」

お願い

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【UDF2.0】

-VRフォーマットに対応したファイルシステムです。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP／2000^{*1}がインストールされたパソコン^{*2}でもデータを読み出すことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版

*2 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

【FAT32】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / Me *1 / 98 *2 がインストールされたパソコン *3 でもデータを読み出すことができます。家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版

*2 Windows 98 Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版

*3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照 → DVD-RAM のセット 『さあ始めよう 2 章 4-① CD / DVD のセット』

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [DVD-RAM ドライブ] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニュー

から [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm] 画面が表示されます。

5 [ドライブ] と [フォーマット種別] を選択する

映像を書き込み、家庭用DVDビデオレコーダで再生するためのDVD-RAMを作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット(UDF2.0)]を選択してください。

パソコンで使用するためのDVD-RAMを作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット(UDF1.5)]を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 [開始] ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する]をチェックしてから、[開始]ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません）。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットが完了するまでに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のDVD-RAMも続けてフォーマットする場合は、DVD-RAMを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[DVDForm]画面で[閉じる]ボタンをクリックしてください。

PDFマニュアルを見る方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [DVD-RAM] → [DVD-RAM ドライバー] → [DVD-RAM ディスクの使い方] をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。

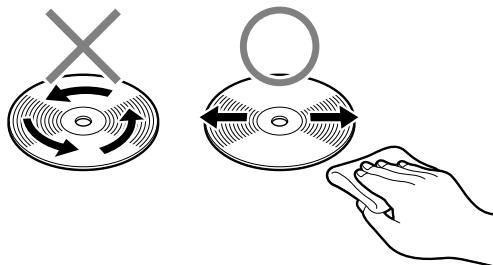
DVD-RAMの使いかたの詳細をご覧いただけます。

お願い CD／DVD の取り扱いと手入れ

CD／DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけるよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD／DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD／DVD を読み込むことができなくなります。
- CD／DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD／DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD／DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD／DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD／DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD／DVD のラベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
- CD／DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。

ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにし、乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 ブリッジメディアスロット

本製品では次のメディアをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SD メモリカード
- SDIO カード
- メモリースティック
- メモリースティック PRO
- xD-ピクチャーカード
- マルチメディアカード

1) SD メモリカードについて

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るために技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品^{*1}を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

* 1 2004 年 10 月現在、弊社製 SDIO カード「Bluetooth™ SD カード 2」(型番 : PABSD001) のみ対応しています。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

「東芝 SD メモリカードフォーマット」については、《サイバーサポート（検索）：SD メモリカードをフォーマットする》をご覧ください。

2) メモリースティックについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、Memory Stick Specification V1.3 準拠のメモリースティックを取り付けて使用できます。

使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック
- メモリースティック PRO
- マジックゲート メモリースティック

本製品は、著作権保護技術 MagicGate には対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。

お願い メモリースティックの使用にあたって

- 本製品は、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo とメモリースティックアダプタには対応していません。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。
したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、メモリースティックにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メモリースティックを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

3) xD-ピクチャーカードについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、xD-ピクチャーカードを取り付けて使用できます。

お願い xD-ピクチャーカードの使用にあたって

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。
したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のxD-ピクチャーカードは、xD-ピクチャーカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、xD-ピクチャーカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、xD-ピクチャーカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、xD-ピクチャーカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。

xD-ピクチャーカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

4) マルチメディアカードについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、マルチメディアカードを取り付けて使用できます。

お願い マルチメディアカードの使用にあたって

- 本製品は、著作権保護機能付きのマルチメディアカードであるSecureMMCは対応していません。
- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。
したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のマルチメディアカードは、マルチメディアカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、マルチメディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、マルチメディアカードを使えるようにすることです。

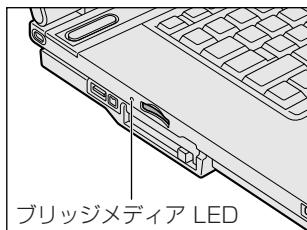
再フォーマットをする場合は、マルチメディアカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。

マルチメディアカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

5) メディアのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアとデータを取り出しているときは、ブリッジメディア    LED が点灯します。



お願い

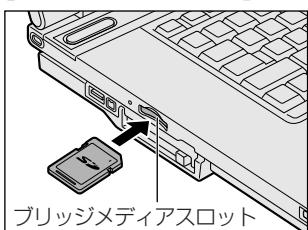
- ブリッジメディア    LED が点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メモリースティックを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。

1 セット

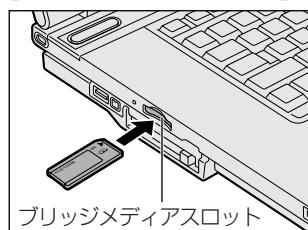
- 1 メディアの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

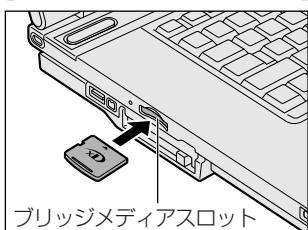
【SDメモリカード】



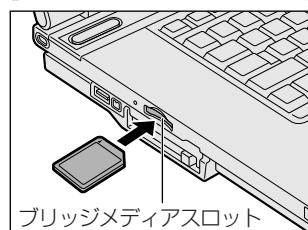
【メモリースティック】



【xD-ピクチャーカード】



【マルチメディアカード】



2 取り出し

1 メディアの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずすメディア) - ドライブを完全に取り外します] をクリックする
XXXX 部分は、メディアの種類によって異なります。
 SD メモリカード : Secure Digital Storage Device
 メモリースティック : MemoryStick2 Device
 メモリースティック PRO : MemoryStickPro2 Device
 xD- ピクチャーカード : XD2 Device
 マルチメディアカード : MMC3 Device
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 メディアを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 メディアの内容を見る

著作権保護*¹ を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

* 1 SD メモリカード、メモリースティックの場合

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

2 メディアのアイコンをダブルクリックする

- | | |
|---------------|----------------|
| SD メモリカード | : SD 記憶装置デバイス |
| メモリースティック | : Memory Stick |
| メモリースティック PRO | : リムーバブルディスク |
| xD- ピクチャーカード | : リムーバブルディスク |
| マルチメディアカード | : リムーバブルディスク |

セットしたメディアの内容が表示されます。

2章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 100
 - 2 Bluetooth機能を使う 118
 - 3 内蔵モデムについて 122

1 LANへ接続する

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。

コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton Internet Security」、「マカフィー・ウイルススキャン／マカフィー・パーソナルファイアウォール」が用意されています。『さあ始めよう 3章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

参照 ➤ コンピュータウイルスについて

『さあ始めよう 3章 1 ウイルスチェック／セキュリティ対策』

1) ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器

や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet

(10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

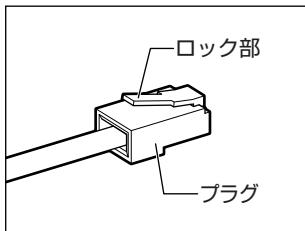
お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LAN コネクタには接続できません。
- LAN ケーブルをパソコン本体の LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときは、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。

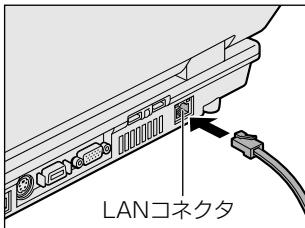
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど性能が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む



ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

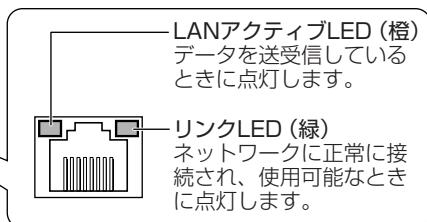
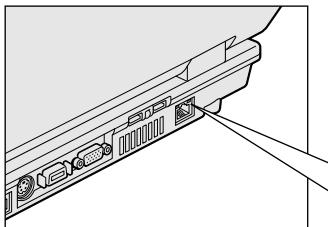
プラグの差し込み部分に線が8本あるのが、LANケーブルです。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポートセンター』を参照してください。《サイバーサポート》で【検索対象】を【Windows XPヘルプ】にして質問を入力し、検索することもできます。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



LANアクティブLED (橙)
データを送受信しているときに点灯します。

リンクLED (緑)
ネットワークに正常に接続され、使用可能なときに点灯します。

3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

- 購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ネットワーク セットアップ ウィザード] をクリックする

[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2) ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

本製品には、無線 LAN モジュールが内蔵されています。無線 LAN モジュールには、b/g 対応モジュール、a/b/g 対応モジュールのいずれかがあります。

1 無線 LAN の概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値 54Mbps 無線 LAN 対応 (IEEE802.11a、IEEE802.11g の場合) *¹
- 規格値 11Mbps 無線 LAN 対応 (IEEE802.11b の場合) *¹
- 周波数チャネル選択 (2.4GHz／5GHz 帯)
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能 (WEP128bit,WPA)

*¹ 表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【無線 LAN の種類】

無線 LAN は、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11a、IEEE802.11g では「直交周波数分割多重方式」(Orthogonal Frequency Devision Multiplexing, OFDM)、IEEE802.11b では「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

お願い

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！)

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめします。

 WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 5-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線 LAN ネットワークには、次のような種類があります。

- 無線 LAN ステーション同士を直接ワイヤレス接続する

参照 「本項 2- アドホックワークグループ」

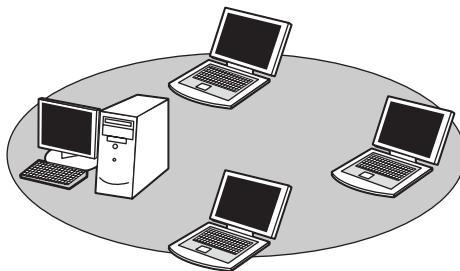
- 無線 LAN アクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線 LAN ステーションに接続する

参照 「本項 2- インフラストラクチャネットワーク」

アドホックワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



アドホックワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

参照 アドホックワークグループの設定について

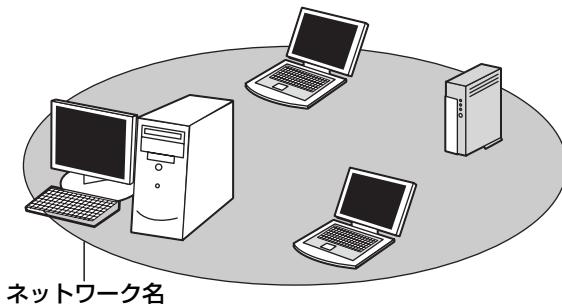
「本項 3 無線 LAN ネットワークの基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

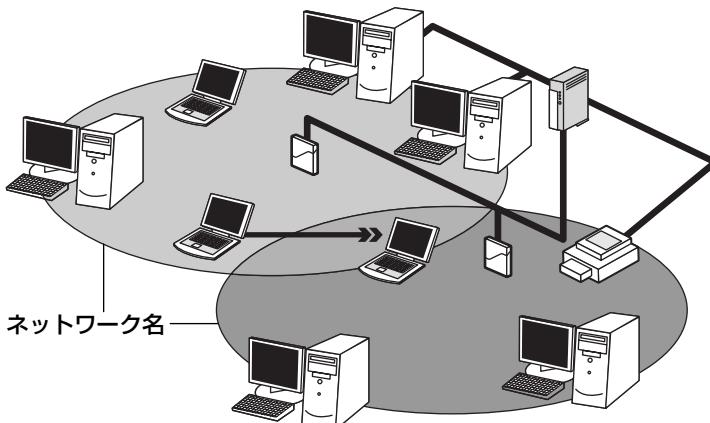
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 ➡ ネットワーク接続のための設定について
 「本項 3 無線 LAN ネットワークの基本設定」

3 無線 LAN ネットワークの基本設定

Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

接続したい無線 LAN ネットワークに応じて設定が必要です。

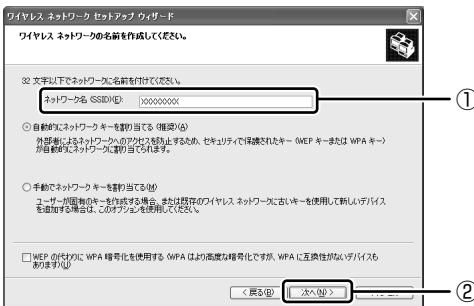
ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ワイヤレス ネットワーク セットアップ ウィザード] をクリックする
[ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。
- 3 [次へ] ボタンをクリックする



[ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。] 画面が表示されます。
パソコン本体に無線 LAN ネットワークを設定してある場合は、[タスクを選択してください。] 画面が表示されるので、指示に従ってください。
手順 4 または手順 5 に進みます。

4 ネットワーク名を入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②



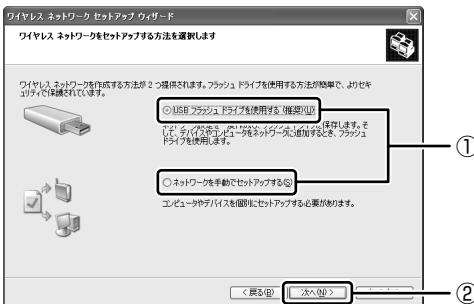
[ワイヤレスネットワークをセットアップする方法を選択します] 画面が表示されます。

すでに無線 LAN ネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、[手動でネットワークキーを割り当てる] にチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。[ワイヤレスネットワークのための WEP キーを入力してください。] 画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

参照 「本項 4- WEP 機能を設定する」

5 目的の方法をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

他のコンピュータやデバイスを無線 LAN ネットワークに追加する方法を選択します。



別売りの USB フラッシュドライブを使用して、無線 LAN ネットワークを簡単で安全にセットアップしたい場合は、[USB フラッシュドライブを使用する] をチェックしてください。USB フラッシュドライブでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。

それ以外の場合は、[ネットワークを手動でセットアップする] をチェックしてください。

[ウィザードの完了] 画面が表示されます。

6 [完了] ボタンをクリックする



(表示例)

手動で無線 LAN ネットワークのセットアップを行う場合は、[ネットワークの設定の印刷] ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている [無題 - メモ] 画面が表示されます。

他のパソコンを無線 LAN ネットワークに加える場合は、[無題 - メモ] に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

4 詳細設定

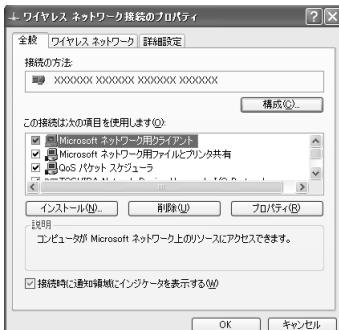
無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

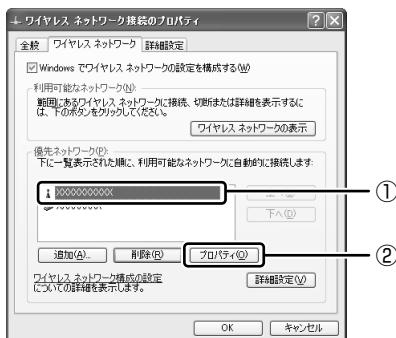
WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には128ビット、64ビットの2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

参照▶「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [優先ネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[プロパティ] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化] で ▾ ボタンをクリックし、[WEP] を選択する



ネットワークがアドホックワークグループの場合は、
チェックしてください。

4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合

[キーは自動的に提供される] がチェックされていることを確認する

- ネットワークキーが自動的に提供されない場合

① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす

② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「***** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

⚠ 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内のパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

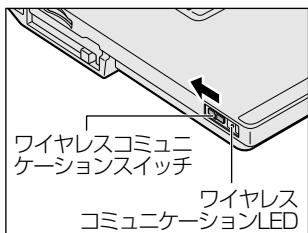
- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(FN)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能を切り替えます。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション LED が点灯します。

無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

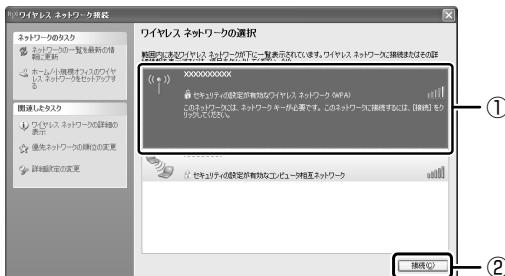
2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

3 [ワイヤレスネットワークの選択] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは、ネットワークキーを入力する画面が表示されます。[ネットワークキー]、[ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。

参照 ➤ ネットワークキー「本項 -3- ネットワーク設定の方法」



接続できると、通知領域に [ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました] とメッセージが表示されます。

4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする

5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ
操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート センター』を参照してください。『サイバーサポート』で【検索対象】を【Windows XP ヘルプ】にして質問を入力し、検索することもできます。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」^{コンフィグフリー}を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- 近隣の無線 LAN デバイスを検索し、架空のマップ上に表示します。
- 登録しているメンバーと会議をしたり、ファイルを送信できます。
- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線 LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替えます。
- 無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。
- 近隣で使われている無線 LAN デバイスの SSID を検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。

など

他にも便利な機能が色々用意されています。

詳細については『ファーストユーザーズガイド』をご覧ください。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

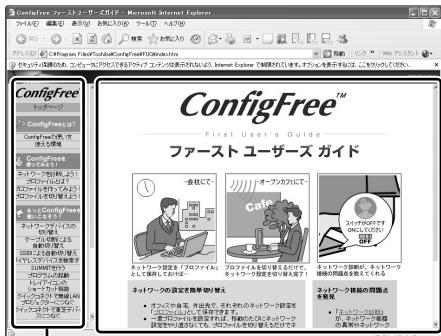
ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

「ファーストユーザーズガイド」が表示されます。

左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。

1 LANへ接続する



説明が表示されます。

主な目次です。

「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

[タスクトレイに常駐する] をチェックすると、通知領域にアイコン（）が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面（Overview）が表示されます。以降必要なない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、『ファーストユーザーズガイド』またはヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする

[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

2 Bluetooth 機能を使う

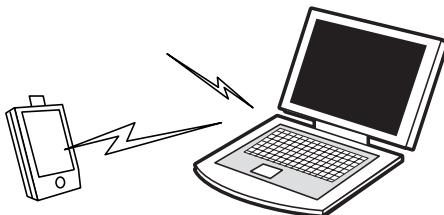
1) Bluetooth とは

ブルートゥース

Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD カードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のマウスを利用したりできます。

- PDA やマウスと…

(使用例)



また、Bluetooth 対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

お願い

- 本製品は、すべての Bluetooth 対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべての Bluetooth 対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品の Bluetooth 機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 または 1.2 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の無線 LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしているBluetoothプロファイルは次のとおりです。

- ダイヤルアップネットワーキングプロファイル (DUN)
ダイヤルアップで接続するプロファイルです。
- FAX プロファイル (FAX)
ファックスを転送するプロファイルです。
- LAN アクセスプロファイル (LAP)
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- シリアルポートプロファイル (SPP)
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- ヒューマンインターフェースデバイスプロファイル (HID)
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)
印刷を行うプロファイルです。
- ファイル転送プロファイル (FTP)
ファイルを転送するプロファイルです。
- オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)
vCardなどのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)
Bluetoothの環境設定を変更するプロファイルです。
- サービスディスカバリー・アプリケーションプロファイル (SDAP)
SDPを制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- サービスディスカバリー・プロトコル (SDP)
サービスを探すプロトコルです。
- アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル (A2DP)
高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)
オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- ジェネリックオーディオ／ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP)
オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。
- パーソナルエリアネットワーキングプロファイル (PAN)
IPベースのネットワークをサポートするプロファイルです。
- ベーシックイメージングプロファイル (BIP)
画像ファイルを送受信するプロファイルです。

Bluetoothを利用してPocket PCとActiveSyncを行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常はCOM7ポートを指定することができます。

2 Bluetooth機能を使って通信する

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠ 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内のパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

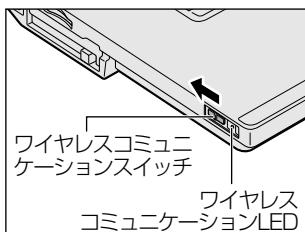
- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、**(FN)**キーを押したまま、**(F8)**キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能を切り替えます。

Bluetooth機能の起動方法

- 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション LED が点灯します。

2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth設定] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン () が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。

初めて起動したときは、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が何度か表示されます。[いいえ、今回は接続しません] または [ソフトウェアを自動的にインストールする] をチェックし、画面に従って操作してください。

途中、「Windows XPとの互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としませんので、[続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



[Bluetooth Manager] アイコン () はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN (Wireless LAN) と同時に使用する際の [注意] 画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

Bluetooth の電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックして表示されたメニューから、[パワー ON] を選択して電源を入れてください。

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」がプレインストールされています。初めて Bluetooth を使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』では、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」について説明しています。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [ユーザーズガイド] をクリックする

3 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

参照 モジュラーケーブルの接続 《できる dynabook》

- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 5 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。設定方法については、《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》をご覧ください。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

3章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	124
2	PC カードを接続する	126
3	USB 対応機器を接続する	129
4	テレビを接続する	131
5	外部ディスプレイを接続する	138
6	モニタ入力を使う	140
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	143
8	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	145
9	その他の機器を接続する	148
10	メモリを増設する	153

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ^{*1}

* 1 増設の際は、メモリ購入前に「本章 10 メモリを増設する」をご覧ください。

周辺機器の接続場所は『さあ始めよう 2 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1) 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

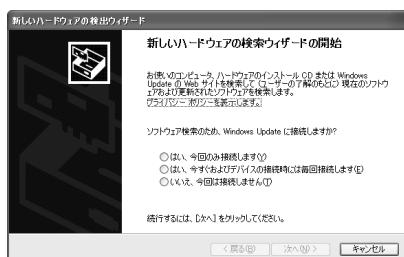
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。

【新しいハードウェアの検出ウィザード】画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

【ハードウェアの追加ウィザード】を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

【ハードウェアの追加ウィザード】は、次のように起動します。

- 【コントロールパネル】を開き、【プリンタとその他のハードウェア】をクリックする
- 【関連項目】の【ハードウェアの追加】をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

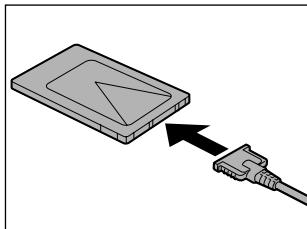
- ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

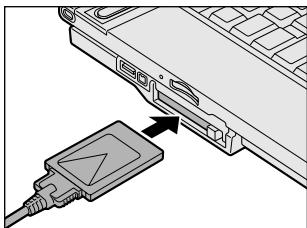
1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける



SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

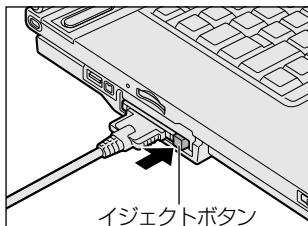
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする

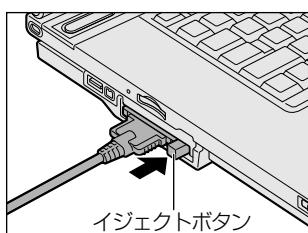
-
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



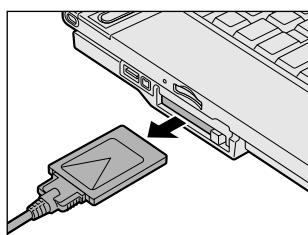
イジェクトボタンが出てきます。
カードが奥まで差し込まれていない場合、
イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう一度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出でます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

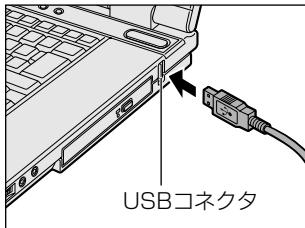
お願い 操作にあたって

- 背面の USB コネクタは、通風孔のすぐ上にあります。通風孔付近は熱くなりますので、延長ケーブルを介さずに接続する USB 対応機器を取り付けるときは、USB 対応機器の動作保証温度を確認のうえ、使用してください。
- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

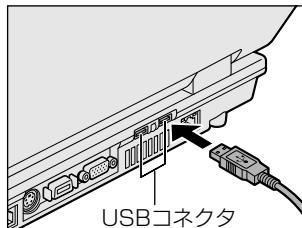
1 取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む
プラグの向きを確認して差し込んでください。

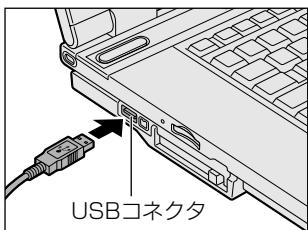
【右側面】



【背面】



【左側面】



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む
この手順が必要ない機器もあります。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
 - ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする
- * 通知領域にこのアイコンが表示されないUSB 対応機器は、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4 テレビを接続する

本製品の S-Video^{エスビデオ}出力コネクタとテレビを S 端子ケーブルで接続したり、本製品の D 映像出力端子とテレビを D 端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

接続する S 端子ケーブルは、市販の 4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。D 映像出力端子は、D1 出力、D2 出力、D3 出力、D4 出力に対応しています。

メモ

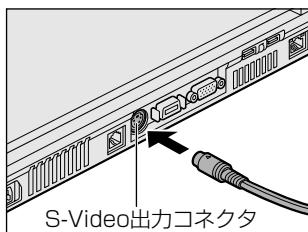
- S-Video 出力コネクタと D 映像出力端子は、同時に使用できません。
- S-Video 出力コネクタと D 映像出力端子のテレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 テレビに表示する」を参照してください。

1 取り付け

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

【S-Video 出力コネクタに接続する】

1 S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S-Video 出力コネクタに差し込む

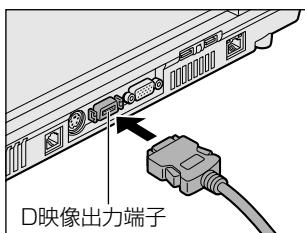


2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S 映像入力端子 (S1/S2 映像入力端子) に差し込む

音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

【D 映像出力端子に接続する】

1 D 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の D 映像出力端子に差し込む



2 D 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの D 映像入力端子に差し込む

テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続してください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

方法 1 – 【画面のプロパティ】で設定する

1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

2 [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

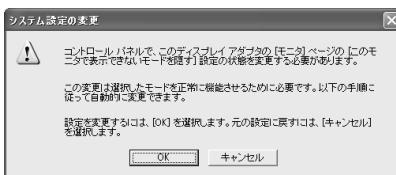
4 [GeForce FX Go5700] タブで次のいずれかに設定する



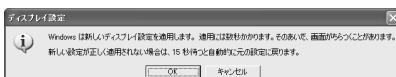
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

- [システム設定の変更] 画面



- [ディスプレイ設定] 画面



- [ディスプレイ設定の確認] 画面



【設定方法】

●本体液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
- ② [現在のディスプレイ] で [デジタル フラット パネル] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

●本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView] で [クローン] を選択する
- ② [プライマリディスプレイ／セカンダリディスプレイ] で [デジタル フラット パネル／TV] を選択する
- ③ [TV] アイコンをクリックする
- ④ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [TV フォーマットを選択する] を選択する
- ⑤ テレビの形式を選択する

次のいずれかを選択してください。

- ・ NTSC-M
- ・ NTSC-J
- ・ PAL-B
- ・ 525p (480p,D2)
- ・ 750p (720p,D4)
- ・ 1125i (1080i,D3)
- ・ 525i (480i,D1)

国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。

D 映像出力端子とテレビを接続した場合は、テレビ側の端子に応じて D1～D4 のいずれかを選択してください。

- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

手順⑤で D1～D4 のいずれかを選択した場合は、[HDTV オーバースキャン設定] 画面が表示される場合があります。テレビに出力するときの解像度と表示方法を選択してください。

●テレビだけに表示

- ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
- ② [現在のディスプレイ] で [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

方法2 - **[FN] + [F5]** キーを使う

* モニタ入力モード中は使用できません。

[FN]キーを押したまま**[F5]**キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。**[FN]**キーを押したまま**[F5]**キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、**[FN]**キーを離すと表示装置が切り替わります。

●表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、**[FN]+[F5]**キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、**[FN]+[F5]**キーを3秒以上押し続けてください。



- LCD 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD／CRT 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD／TV 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windowsのログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、**[FN]+[F5]**キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ➔ ユーザアカウントの切り替え 《できるdynabook》

3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する

表示装置を本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画をテレビや外部ディスプレイに表示させるには、次の設定を行います。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [GeForce FX Go5700] タブで [GeForce FX Go5700] ボタンをクリックする
画面左側にメニューが表示されない場合は、画面の左端にある矢印をクリックしてください。
- 5 表示されるメニューから [nView ディスプレイ設定] をダブルクリックする



6 表示されるメニューから【フルスクリーンビデオ】をクリックする



7 【フルスクリーンデバイス】で【プライマリディスプレイ】または【セカンダリディスプレイ】を選択する

【プライマリディスプレイ】または【セカンダリディスプレイ】を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画を表示できます。

【プライマリディスプレイ】を選択すると、本体液晶ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。テレビまたは外部ディスプレイにはウィンドウ表示されます。

【セカンダリディスプレイ】を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。本体液晶ディスプレイにはウィンドウ表示されます。

【無効】を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画は表示されません。

8 [OK] ボタンをクリックする

9 【画面のプロパティ】画面で [OK] ボタンをクリックする

メモ

- テレビにD端子ケーブルで接続し、D3出力およびD4出力を選択した場合、一部のコピーガードのかかったDVD-Videoは再生できません。

4 取りはずし

- パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルまたはD端子ケーブルを抜く

5 外部ディスプレイを接続する

アールジーピー
RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

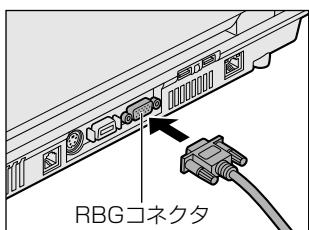
メモ

使用可能なディスプレイは解像度により異なります。解像度にあったディスプレイを接続してください。

1 接続

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切った後、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法1」や「方法2」を参考にしてください。「方法1」を参考にする場合は、[GeForce FX Go5700]タブの【現在のディスプレイ】で【アナログディスプレイ】を選択してください。

 表示装置の切替えについて「本章4-2 テレビに表示する」

また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定した場合、動画を外部ディスプレイに表示するには設定が必要です。

 外部ディスプレイに動画を表示する

「本章4-3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

 ビデオモードについて「付録1-1 サポートしているビデオモード」

6 モニタ入力を使う

ビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタに次の機器を接続し、本体液晶ディスプレイに映像を表示することができます。

- アナログのビデオカメラ
- アナログのビデオデッキ
- 家庭用 TV ゲーム機
- TV 出力機能付き携帯電話 など

お願い モニタ入力の使用にあたって

- すべてのビデオカメラ、ビデオデッキ、家庭用 TV ゲーム機、TV 出力機能付き携帯電話の動作確認は行っていません。したがってすべてのビデオカメラ、ビデオデッキ、家庭用 TV ゲーム機、TV 出力機能付き携帯電話の動作は保証できません。
- 使用する前に、アプリケーションをすべて終了してください。モニタ入力モード中は、Windows 画面が表示されないため、マウスやタッチパッドやキーボード操作で誤動作することがあります。
- 「東芝省電力」の「モニタの電源を切る」を「なし」に設定してください。また、モニタ入力モード中も「東芝省電力」の設定に従ってシステムがスタンバイや休止状態を実行します。スタンバイや休止状態を実行すると、モニタ入力モードを終了しますので、必要に応じてあらかじめ設定を変更してください。

参照 省電力機能について「4章 2-① 東芝省電力」

- パソコンの電源を入れたときと、スタンバイや休止状態から復帰したときは、約 30 秒間[FN]+④キーを受け付けません。[FN]+④キーを押してもモニタ入力モードに切り替わらない場合は、少し時間をおいて、もう 1 度押してください。
- モニタ入力モード中は、パソコン本体に接続されたテレビや外部液晶ディスプレイに表示を切り替えることはできません。
- モニタ入力モード中は、インスタントセキュリティ機能を実行しないでください。
- モニタ入力モード中は、Windows 画面が表示されません。Windows が表示するメッセージなどを確認する場合は、モニタ入力モードを終了してください。
- 次の操作を行うと、モニタ入力モードは、自動的に終了します。
 - ・パソコンの電源を切る
 - ・キーボードを操作する
 - ・スタンバイを実行する
 - ・リモコンを操作する
 - ・休止状態を実行する

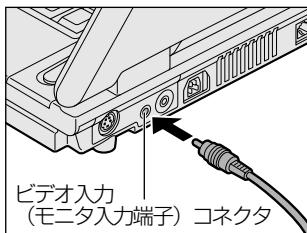
モニタ入力を使用する前に、「映像調整ユーティリティ」の「モニタ入力設定」で、ビデオカメラやゲーム機器などの外部からの入力方法を設定してください。

参照 モニタ入力設定 「1章 6-③-3 モニタ入力設定」

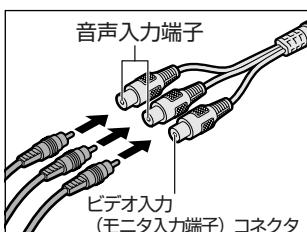
1 切り替え方法

パソコン本体の電源を切った状態で行ってください。

- ビデオ入力ケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタに差し込む



- 接続する機器用の出力ケーブルのプラグをビデオ入力ケーブルの音声入力端子（赤：音声右、白：音声左）、ビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタ（黄）に差し込む



出力ケーブルの名称は、ビデオケーブル、AVケーブル、TV出力ケーブルなど接続する機器によって異なります。接続する機器の説明書を確認してください。

- 接続する機器用の出力ケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む
- 接続した機器の電源を入れる
- パソコン本体の電源スイッチ、またはTVボタンまたはCD/DVDボタンを押す

電源スイッチを押した場合は、Windowsが起動します。

TVボタンを押した場合は、「QosmioPlayer (TV)」が起動します。CD/DVDボタンを押した場合は、ドライブに音楽CDやDVD-Videoがセットされていると、再生を開始します。再生を停止してください。

参照 > 再生の停止「1章 4-② QosmioPlayer の操作一覧」

なお、「QosmioPlayer (TV)」で録画、お好み再生、または追っかけ再生を行っているときには、モニタ入力モードに切り替えることはできません。

6 **(FN)+④キーを押す**

モニタ入力モードになります。

映像の再生などの操作は、それぞれの機器の操作ボタンで行ってください。

メモ

- モニタ入力モードに切り替えたときのアスペクト比（画面の縦・横の比）は4:3です。**(FN)+④キー**を押すと16:9に切り替わり、もう1度押すとモニタ入力モードを終了します。
- ビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタは、LINE IN端子を兼ねているため、ビデオ入力ケーブルに接続した機器の音声データがパソコンのスピーカから出力されます。出力をやめるには、モニタ入力モードを終了し、Windows上の「ボリュームコントロール」で【ライン入力】の【ミュート】にチェックをつけてください。

 ボリュームコントロール 「1章 8-1 スピーカの音量を調整する」

【モニタ入力モードを終了するとき】

お願い

- パソコンの電源を切る前に、モニタ入力モードを終了してください。モニタ入力モード中に強制終了した場合、データが消失するおそれがあります。

1 モニタ入力モード（16:9）の状態で、**(FN)+④キーを押す**

- 「切り替え方法」の手順5で電源スイッチを押した場合
Windowsの画面に戻ります。
- 「切り替え方法」の手順5でTVボタンまたはCD/DVDボタンを押した場合
モニタ入力モード終了後に使用する機能の選択画面が表示されます。
QosmioPlayer (TV) に戻るには、TVボタンまたは**(F10)**キーを押します。
QosmioPlayer (CD/DVD) に戻るには、CD/DVDボタンまたは**(F11)**キーを押してください。

7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

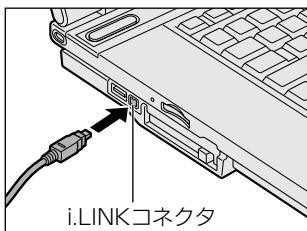
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
プラグの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
 - ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする
- * 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。《サイバーサポート》で [検索対象] を [Windows XP ヘルプ] にして質問を入力し、検索することもできます。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

8 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MD レコーダ
- DAT レコーダ
- MD コンポ
- 光入力付きアンプ
- 光入力スピーカ
- など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

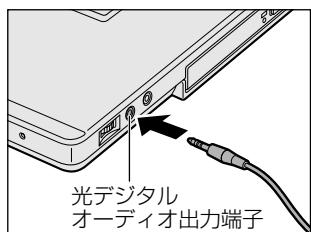
 ヘッドホン出力端子への接続について 「本章 9-② ヘッドホン」

お願い 操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグ
または光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が
48kHz に固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない
光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお
読みください。
 - ・ お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製
などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作
物によっては、一切の録音、複製などができるないものがあります。これらに
反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、
光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著
作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・ お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子を
ご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、
「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合や、著作権保
護機能（SCMS に準拠）を持つプレーヤでCD や音楽ファイルを再生した場合、
録音できない場合があります。
SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源か
らのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CD からMD に録音
することはできますが、録音したMD からさらに他のMD に録音することはでき
ません。

1 取り付け

- デジタルオーディオケーブルのプラグを光デジタルオーディオ出力端子に差し込む



- デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

- パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MDコンポなど）への録音方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

3 録音したい音楽などをパソコンで再生する

次の場面に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル (AVI／MPG)、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、まず光デジタル対応機器側で録音を開始し、次にパソコン側で音楽などの再生を開始してください。

シンクロ録音機能を使用する場合は、次の手順で、デジタル出力を有効にしてください。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- ② メニューバーの [オプション] → [トーン調整] をクリックする
- ③ [トーン] ボタンをクリックする
- ④ [AC3 SPDIF] または [PCM SPDIF] をチェックする

[AC3 SPDIF] は、多チャンネル（5.1 チャンネル）の DVD の場合に、[PCM SPDIF] は、2 チャンネルの DVD（リニア PCM 形式）の場合に設定してください。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

9 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

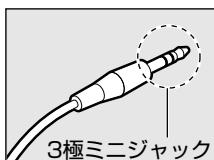
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 ➔ サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

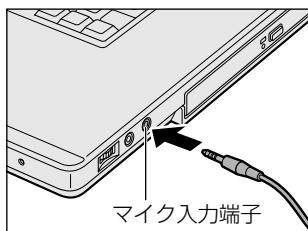
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 ➔ 「LaLaVoice」について
《サイバーサポート（検索）：パソコンを音声で操作したい》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

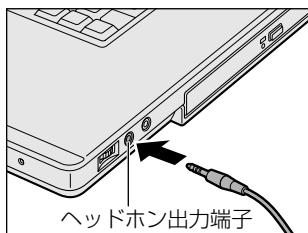
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

3 オーディオ機器

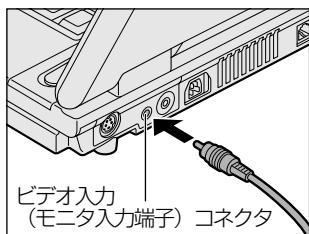
ビデオ入力コネクタには、オーディオ機器を接続できます。本製品のビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタは、LINE IN 端子を兼ねています。

参照 ➤ ビデオ入力コネクタ「本章 6 モニタ入力を使う」

1 接続

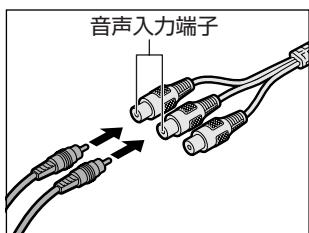
同梱のビデオ入力ケーブルと市販のオーディオケーブルを使用してください。
オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm Φステレオミニジャックタイプを使用してください。

1 ビデオ入力ケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタに差し込む



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

2 オーディオケーブルのプラグをビデオ入力ケーブルの音声入力端子（赤：音声右、白：音声左）に差し込む



3 オーディオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE OUT 端子に差し込む

取りはずすときは、音声入力端子からオーディオケーブルのプラグを抜き、ビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタからビデオ入力ケーブルを抜きます。

4) アナログのビデオカメラやビデオデッキなど

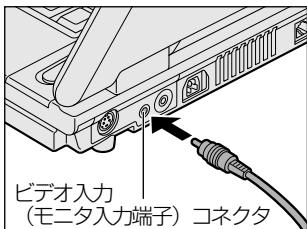
本製品にケーブルを使ってアナログのビデオカメラやビデオデッキなどを接続すると、映像を取り込むことができます。取り込んだ映像は、編集したり、DVDに書き込んだりできます。

1 ビデオケーブルの接続

あらかじめビデオカメラやビデオデッキなどの外部からの入力方法を設定する必要があります。「映像調整ユーティリティ」の「モニタ入力設定」で「モニタ入力端子」を選択してください。

参照 モニタ入力設定 「1章 6-3 モニタ入力設定」

1 ビデオケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタに差し込む



取りはずすときは、ビデオ入力（モニタ入力端子）コネクタからビデオケーブルのプラグを抜きます。

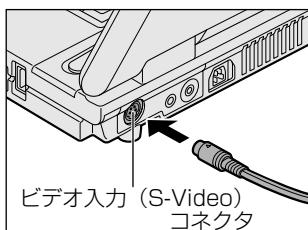
2 ビデオケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む

2 S端子ケーブルの接続

あらかじめビデオカメラやビデオデッキなどの外部からの入力方法を設定する必要があります。「映像調整ユーティリティ」の「モニタ入力設定」で「S端子」を選択してください。

参照 ➤ モニタ入力設定 「1章 6-③-3 モニタ入力設定」

1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ入力 (S-Video) コネクタに差し込む



取りはずすときは、ビデオ入力 (S-Video) コネクタから S端子ケーブルのプラグを抜きます。

2 S端子ケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む

音声は、ビデオケーブルで音声入力端子（赤：音声右、白：音声左）に接続して聞いてください。

ケーブルでアナログのビデオカメラやビデオデッキなどを接続したら、「WinDVR」を起動してください。

[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVR] → [InterVideo WinDVR] をクリックすると起動します。

「WinDVR」の使いかたについては、『図解で読むマニュアル テレビを見る／番組を録画する』をご覧ください。また、「1章 1-④ 「WinDVR」を使う」もよくお読みください。

10メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットA（下段）はすでに512MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットB（上段）に取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて、最大2GBまでです。

⚠ 警告

- 本文中に説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがあるので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、次のような警告音（ビープ音）が鳴ります。

警告音	エラーの原因
ピー、ピッ	スロットAに動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、ピッ	スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、無音、 ピー、ピッ、ピッ	スロットA、スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
警告音が鳴らない	動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられている。

起動はするがメモリが認識されない場合は、どちらか一方のスロットには動作保証されているメモリが取り付けられていますが、もう一方のスロットには動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられています。

お願い 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触るだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた「さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる」

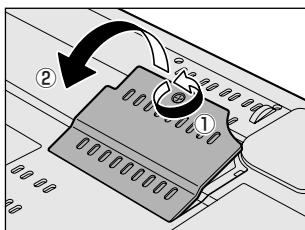
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4 章 1-③ バッテリパックを交換する」

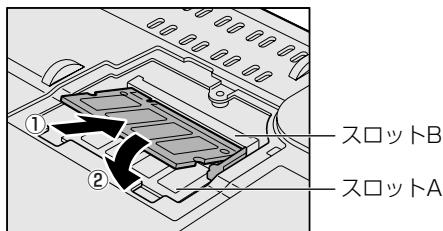
4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②

増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。



5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロットA、上段がスロットBです。

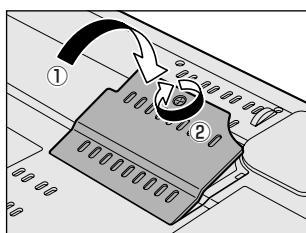


増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 増設メモリカバーをつけて①、手順4でゆるめたネジ1本をとめる②

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

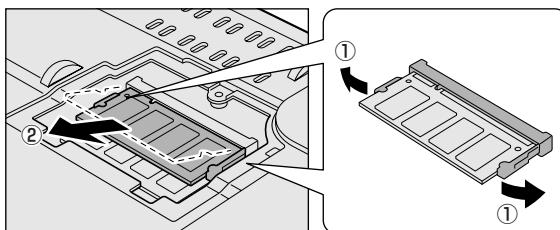
参照 バッテリパックの取りはずし「4 章 1-③ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす

増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロット A、上段がスロット B です。



斜めに持ち上がった
増設メモリを引き抜
きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4 章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報] タブで [メモリ] の数値を確認する

参照▶「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

メインメモリはビデオ RAM と共にため、[基本情報] タブで表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

4 章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリについて 160
 - 2 省電力の設定をする 169
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 170

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。

バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。

バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック:PABAS055）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

⚠ 警告

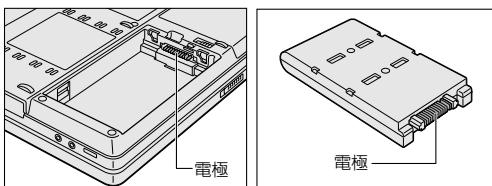
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注意

- バッテリパックの充電温度範囲内（5～35°C）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

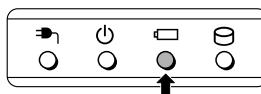


1) バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



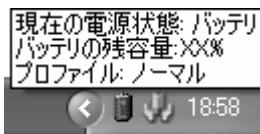
Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 ➡ バッテリの充電について「本節 ② バッテリを充電する」
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。



参照→ 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

参照→ 再充電について「本節 ②-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する

「東芝省電力」の【アクション設定】タブの【アラーム設定】で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。

時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power LEDが緑色に点灯）	8時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery □ LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery □ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN ▷ LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【充電完了までの時間】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G10/2 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【使用できる時間】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G10/2 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【バッテリ駆動時の処理速度】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。

保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G10/2 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
 - 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
 - 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
- その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery □ LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN ▷ LEDが緑色に点灯してBattery □ LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery □ LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery □ LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN ▷ LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリを節約する】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 ➔ 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
参照 ➔ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルを設定する 参照 ➔ 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。

バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

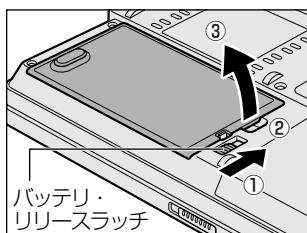
1 取りはずし／取り付け

- データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- バッテリ安全ロックを矢印の方向に引く

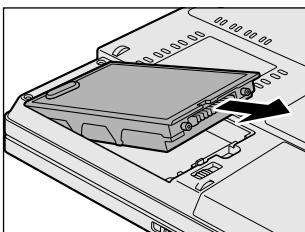


バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

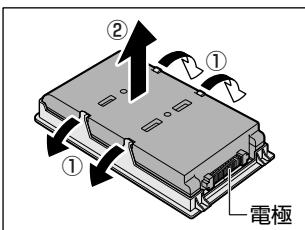
- バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけて②、バッテリカバーごとバッテリパックを持ち上げる③



6 バッテリカバーごと、バッテリパックを取り出す

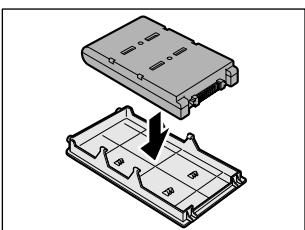


7 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す

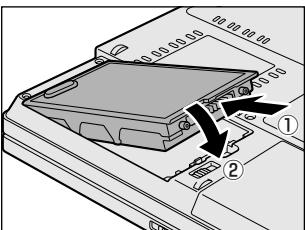


バッテリカバーのツメを左右に広げ①、
バッテリパックを取りはずします②。

8 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

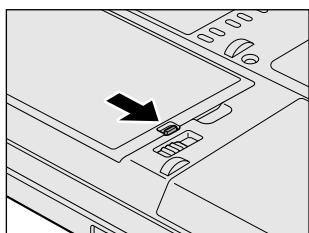


9 バッテリパックをコネクタに斜めに挿入し①、静かに差し込む②



新しいあるいは充電したバッテリパックを
注意して、カチッという音がするまで差し
込んでください。

10 バッテリ安全ロックを矢印の方向に押す



バッテリパックがはずれないように、バッテリ安全ロックは必ず行ってください。

2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。



(表示例)

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
ヘルプの該当するページが表示されます。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スタンバイ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
 - ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
- また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
- システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込むとき、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与えることがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

メモ

メモリースティックを使用しているときにスタンバイが実行された場合、電源スイッチを押してから状態を再現するまでに少し時間がかかることがあります。故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

〔FN〕+〔F3〕キーを押して、スタンバイにすることもできます。

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [電源オプション] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 [SHIFT]キーを押したまま [休止状態] をクリックする

[SHIFT]キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

(FN)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の③で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

5章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 176
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 177

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

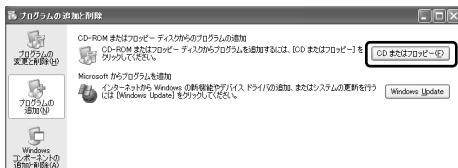
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROMなどをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CD またはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 ➔ 再インストールについて

『困ったときは 4 章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

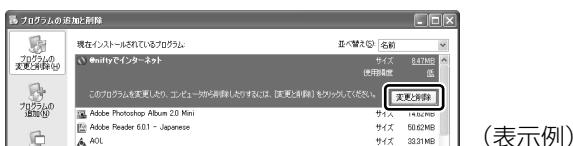
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル]を開き、[プログラムの追加と削除]をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除]または[変更と削除]ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 180
 - 2 BIOS セットアップを使う 181

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目	Windows 上のユーティリティ	
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定	<p>「東芝 HW セットアップ」 参照 ➤ 《サイバーサポート（検索）：東芝 HW セットアップ》</p>	
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	<p>「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ➤ 《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》</p>
	スーパーバイザパスワード	<p>「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ➤ 《サイバーサポート（検索）：スーパーバイザパスワード》</p>
省電力の設定	<p>「東芝省電力」 参照 ➤ 「4 章 2 省電力の設定をする」</p>	

BIOS セットアップについては「本章 2 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。 BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 [ESC] キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザーパスワードを入力し、
[ENTER] キーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 [F1] キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 **[FN]+[→]キーを押す**

本製品では、**[FN]+[→]**が**[END]**キーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 **[Y]キーを押す**

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままでです。

1 **[ESC]キーを押す**

画面にメッセージが表示されます。

2 **[Y]キーを押す**

BIOSセットアップが終了します。

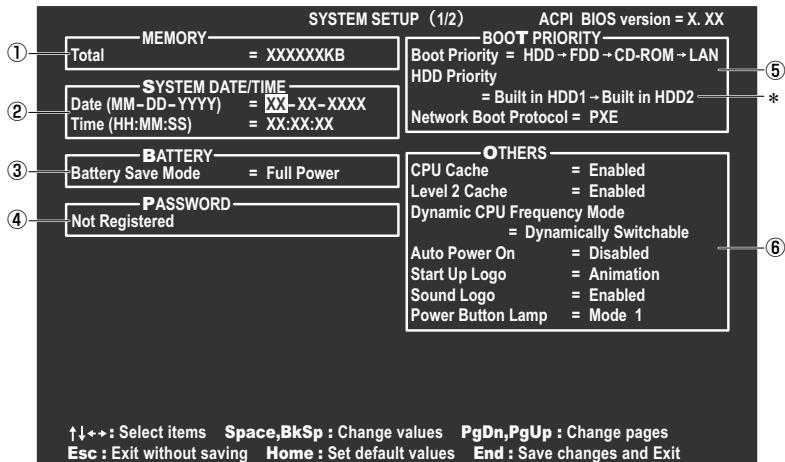
3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

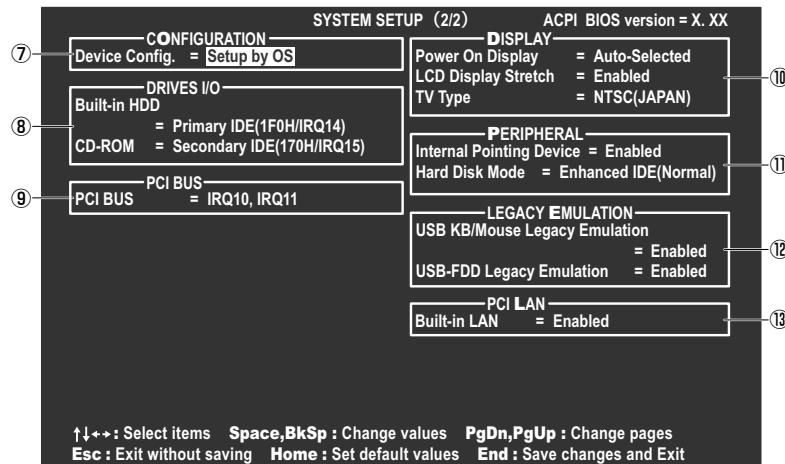
変更したい項目を選択する	[↑]、[↓]、[←]、[→] 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	[SPACE] または [BACKSPACE]
画面を切り替える	[FN]+[↓] または [FN]+[↑] 本製品では、 [FN]+[↓] が [PGDN] キー、 [FN]+[↑] が [PGUP] キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	[FN]+[←] 本製品では、 [FN]+[←] が [HOME] キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 <ul style="list-style-type: none">●PASSWORD●Hard Disk Mode●SYSTEM DATE/TIME

2) BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の 2 つの画面があります。



* 1 ハードディスク 2 台内蔵モデルのみ表示されます。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。

ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は〔SPACE〕または〔BACKSPACE〕キーで行います。

月と日と年、時と分と秒の切り替えは、〔↑〕〔↓〕キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」 ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」 ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.
HDD Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Super-Bright
Cooling Method = Maximum Performance

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
LCD Brightness = Bright
Cooling Method = Battery Optimized

(注) またLCD Brightnessは、ACアダプタを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」 ウィンドウを閉じるには、〔↑〕〔↓〕キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、**(SHIFT)**キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する

● Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
- ・ Performance パソコン本体内部の温度が上昇したときに、[Maximum Performance] と [Battery Optimized] の中間的な方法で冷却します。
- ・ Battery Optimized パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPU の処理速度を落として冷却します。[Performance] より消費電力は少なくなります。

4 PASSWORD—ユーザーパスワードの登録／削除をする

ユーザーパスワードの登録や削除は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 東芝パスワードユーティリティでのパスワード設定
《サイバーサポート（検索）：ユーザーパスワード》

パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザーパスワードが登録されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザーパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザーパスワードの登録 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

ユーザーパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザーパスワードを削除してから、登録してください。

参照 ユーザーパスワードの削除方法「本項 4- ユーザーパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは 50 文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

パスワードは 1 文字ごとに * が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 [ENTER]キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 3 と同じパスワードを入力してください。

6 [ENTER]キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 ユーザパスワードの登録が終了したら、[FN]+[→]キーを押す

本製品では、[FN]+[→] が [END] キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)

The changes you made will cause the system to reboot.

8 [Y]キーを押す

パスワードが登録されます。

BIOS セットアップの画面に戻るには [N] キーを押します。

■ ユーザパスワードの削除 ■

「東芝パスワードユーティリティ」からの削除については《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》を確認してください。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、 [Space] または [BackSpace] キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。

4 [Enter]キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 [Enter]キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 [Enter]キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除されます

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまったとき ■

「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存した場合は、他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。パスワードファイルを外部記憶メディアに保存しなかった場合にユーザパスワードを忘れてしまったときは、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■ ユーザパスワードの変更 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、 [Space]または[BackSpace]キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 [Enter]キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、[Enter]キーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、[Enter]キーを押す

パスワードが変更されます。

手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- |————— 指定のドライブ順に起動する

QosmioPlayer 機能を使用して起動すると HDD が最優先されます。

【 HDD Priority 】

ハードディスク2台内蔵モデルのみ表示されます。

システムを起動するハードディスクドライブの順番を設定します。

- ・ Built in HDD1 → Built in HDD2（標準値）
- ・ Built in HDD2 → Built in HDD1

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE（標準値）………PXEプロトコルに設定する
- ・ RPL……………RPLプロトコルに設定する

6 OTHERS—その他の設定をする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Enabled（標準値）… キャッシュメモリを使用する
- ・ Disabled…………… キャッシュメモリを使用しない

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は表示されません。

- Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- Dynamically Switchable (標準値) CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じて CPU 周波数を自動的に切り替えます。
- Always High CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- Always Low CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。

起動後は設定が解除されます。

Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。

Windows のタスクスケジューラを使用してください。

- Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能が設定されていない
- Enabled タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、
タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、
「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを
入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

参照 ➔ パスワードセキュリティの設定「本章 1 システム環境の変更とは」

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は`(SPACE)`または`(BACKSPACE)`キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは`(↑)(↓)`キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
 「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- Disabled 月日を設定しない

【 Start Up Logo 】

起動時に表示される「Qosmio」ロゴについて設定します。

- Animation (標準値) アニメーションロゴが表示される
- Picture ピクチャ（静止画）ロゴが表示される

QosmioPlayer 機能を使用して起動するとピクチャ（静止画）ロゴが表示されます。

【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- Enabled (標準値) ... 音を鳴らす
- Disabled 音を鳴らさない

QosmioPlayer 機能を使用して起動すると音は鳴りません。

【 Power Button Lamp 】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ／休止状態
Mode 1 (標準値)	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Mode 2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
Mode 3	緑色→オレンジ色→青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Off	常に消灯		

なお、ACアダプタとバッテリパックを取りはずすと、いったん設定が Mode 1 (標準値) に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、ACアダプタとバッテリパックを取りはずす前の設定に戻ります。

7 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
- All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。

8 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM の設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

9 PCI BUS—PCI バスの割り込みレベルを表示する

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません

10 DISPLAY—表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- LCD + Analog RGB 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows 起動後は、前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、本体液晶ディスプレイに表示されます。

QosmioPlayer 機能を使用して起動すると本体液晶ディスプレイにのみ表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイの解像度の伸張を選択します。

- ・ Enabled(標準値) 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) ... 日本仕様の TV 受信機
- ・ PAL (S-Video) ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- ・ 525p (480p,D2)
- ・ 750p (720p,D4)
- ・ 1125i (1080i,D3)
- ・ 525i (480i,D1)
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機

11 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

12 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
　　ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
　　ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、
[5] 「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM
→ LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

13 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled (標準値) ... 有効にする
- Disabled 無効にする

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

-
- 1 本製品の仕様 196
 - 2 リモコン操作一覧 (Windows XP) 198
 - 3 言語コード一覧 200
 - 4 技術基準適合について 202
 - 5 無線 LAN について 216
 - 6 Bluetooth について 225

1 本製品の仕様

仕様についての詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G10/2シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

1 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 ➤ 表示可能色数の詳細について

「1章 6-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)		
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70		
2,3		80×25字					
0*,1*		40×25字	8×14				
2*,3*		80×25字					
0+,1+		40×25字	8(9)×16				
2+,3+		80×25字					
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	70		
6		640×200ドット					
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	60		
7+			8(9)×16				
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60		
E		640×200ドット					
F		640×350ドット	8×14				
10							
11		640×480ドット	8×16	2/256K			
12							
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70		

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480 ドット	—	256/256K	60/75/85 /100
—		800×600 ドット	—		
—		1024×768 ドット	—		
—		1280×1024 ドット	—		
—		1440×900 ドット	—		
—		1600×1200 ドット ^{*1}	—		
—		1920×1440 ドット ^{*1}	—		60/75/85
—		2048×1536 ドット ^{*1}	—		60/75
—		640×480 ドット	—		
—		800×600 ドット	—		
—	SVGA グラフィックス	1024×768 ドット	—	64K/64K	60/75/85 /100
—		1280×1024 ドット	—		
—		1440×900 ドット	—		
—		1600×1200 ドット ^{*1}	—		
—		1920×1440 ドット ^{*1}	—		
—		2048×1536 ドット ^{*1}	—		60/75/85
—		640×480 ドット	—		60/75
—		800×600 ドット	—		
—		1024×768 ドット	—		
—		1280×1024 ドット	—		
—	SVGA グラフィックス	1440×900 ドット	—	16M/16M	60/75/85 /100
—		1600×1200 ドット ^{*1}	—		
—		1920×1440 ドット ^{*1}	—		
—		2048×1536 ドット ^{*1}	—		
—		640×480 ドット	—		
—		800×600 ドット	—		
—		1024×768 ドット	—		
—		1280×1024 ドット	—		
—		1440×900 ドット	—		
—		1600×1200 ドット ^{*1}	—		

* 1 LCDに表示する場合は、実際の画面（1440×900）内に、仮想スクリーン表示します。

注) 一部の画面モードは、マルチモニタでは使用できません。

2 リモコン操作一覧 (Windows XP)

Windows XP を使用しているとき、次のようにリモコンで操作が行えます。

「InterVideo WinDVD」および「WinDVR」でリモコン操作を行う場合、「InterVideo WinDVD」および「WinDVR」を最前面に表示してご使用ください。

なお、「QosmioPlayer」を使用しているときのリモコン操作については、「1章 4-❷ QosmioPlayer の操作一覧」を参照してください。

リモコン	WinDVD	WinDVR	その他
電源			システムの起動/終了
TV		「WinDVR」の起動/終了	
CD/DVD			「QosmioUI」の起動
入力切替		ビデオソースの切替	
全画面	フルスクリーン/ ウィンドウ表示の切替	フルスクリーン/ ウィンドウ表示の切替	
輝度△			本体液晶ディスプレイ の輝度を上げる
輝度▽			本体液晶ディスプレイ の輝度を下げる
1~9、10/0	チャプタ選択 (1~9、0)	チャンネル選択 (1~9、0)	
11、12			
チャンネル△		チャンネルを1つ進める	
チャンネル▽		チャンネルを1つ戻す	
項目選択	項目を移動	項目を移動	TABキー同様
DVDメニュー	ルートメニューを表示		
◀、▲、▼、▶	カーソル移動	カーソル移動	カーソル移動
決定	項目を決定 再生中はオートリピートの On/Off 切替	項目を決定	ENTERキー同様
設定	セットアップ画面の表示	セットアップ画面の表示	
戻る	フルスクリーン/ ウィンドウ表示の切替	直前の操作をキャンセル	ESCキー同様
音量+	音量上げる	音量上げる	音量上げる
音量-	音量下げる	音量下げる	音量下げる
ミュート	消音/消音取り消し	消音/消音取り消し	消音/消音取り消し

リモコン	WinDVD	WinDVR	その他
録画		録画	
タイムシフト		タイムシフト機能を実行	
リプレイ	インスタントリプレイ	インスタントリプレイ	
スキップ	先にスキップ	コマーシャルをスキップ	
◀◀	映像を早戻し	映像を巻き戻し	
▶/	再生/一時停止	再生/一時停止	
▶▶	映像を早送り	映像を早送り	
◀◀	1つ前のチャプタを再生	チャンネルを1つ進める 1つ前のチャプタを再生	
■	映像再生を停止	再生を停止	
▶▶	次のチャプタを再生	チャンネルを1つ戻す 次のチャプタを再生	
表示	チャプタ番号と 時間の一時表示	チャンネル番号の 一時表示	
アングル	アングル切替		
字幕	サブタイトル切替		
音声/音多	音声切替	TVオーディオ切替	

3 言語コード一覧

QosmioPlayer で言語コードを入力する場合、次の表を参照してコード番号を入力してください。

参照 「1 章 4-5-1-言語設定」

コード	言語	コード	言語	コード	言語
AA	アファル語	EO	エスペラント語	IT	イタリア語
AB	アブバジア語	ES	スペイン語	IW	ヘブライ語
AF	アフリカーンス語	ET	エストニア語	JA	日本語
AM	アムハラ語	EU	バスク語	JL	イディッシュ語
AR	アラビア語	FA	ペルシャ語	JW	ジャワ語
AS	アッサム語	FI	フィンランド語	KA	グルジア語
AY	アイマラ語	FJ	フィジー語	KK	カザフ語
AZ	アゼルバイジャン語	FO	フェロー語	KL	グリーンランド語
BA	バシキール語	FR	フランス語	KM	カンボジア語
BE	ベラルーシ語	FY	フリジア語	KN	カンナダ語
BG	ブルガリア語	GA	アイルランド語	KO	韓国語
BH	ビハーリー語	GD	スコットランドゲール語	KS	カシミール語
BI	ビスマラク語	GL	ガルシア語	KU	クルド語
BN	ベンガル語 バングラ語	GN	グアラニ語	KY	キルギス語
BO	チベット語	GU	グジャラート語	LA	ラテン語
BR	ブルトン語	HA	ハウサ語	LN	リンガラ語
CA	カタロニア語	HI	ヒンディー語	LO	ラオス語
CO	コルシカ語	HR	クロアチア語	LT	リトニア語
CS	チェコ語	HU	ハンガリー語	LV	ラトビア語、レット語
CY	ウェールズ語	HY	アルメニア語	MG	マダガスカル語
DA	デンマーク語	IA	国際語	MI	マオリ語
DE	ドイツ語	IE	国際語	MK	マケドニア語
DZ	ブルータン語	IK	エスキモー語	ML	マラヤーラム語
EL	ギリシャ語	IN	インドネシア語	MN	モンゴル語
EN	英語	IS	アイスランド語	MO	モルダビア語

コード	言語	コード	言語	コード	言語
MR	マラータ語	SA	サンスクリット語	TI	ティグリニヤ語
MS	マレー語	SD	シンド語	TK	トルクメン語
MT	マルタ語	SG	サンゴ語	TL	タガログ語
MY	ミャンマー語	SH	セルビアクロアチア語	TN	セツワナ語
NA	ナウル語	SI	シンハラ語	TO	トンガ語
NE	ネパール語	SK	スロバキア語	TR	トルコ語
NL	オランダ語	SL	スロベニア語	TS	ツォンガ語
NO	ノルウェー語	SM	サモア語	TT	タタール語
OC	プロバンス語	SN	ショナ語	TW	トゥイ語
OM	(アフアン) オロモ語	SO	ソマリ語	UK	ウクライナ語
OR	オリヤー語	SQ	アルバニア語	UR	ウルドゥー語
PA	パンジャブ語	SR	セルビア語	UZ	ウズベク語
PL	ポーランド語	SS	シスワティ語	VI	ベトナム語
PS	パシュトー語	ST	セストゥ語	VO	ボラピュク語
PT	ポルトガル語	SU	スンダ語	WO	ウォロフ語
QU	ケチュア語	SV	スウェーデン語	XH	コーサ語
RM	ラエティ=ロマン語	SW	スワヒリ語	YO	ヨルバ語
RN	キルンディ語	TA	タミール語	ZH	中国語
RO	ルーマニア語	TE	テルグ語	ZU	ズール語
RU	ロシア語	TG	タジク語		
RW	キニヤルワンダ語	TH	タイ語		

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパソコンコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 ➔ 『困ったときは 3章 その他 -

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

高調波対策について

本装置は、「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

国際エネルギースター プログラムについて

当社は国際エネルギースター プログラムの参加事業者として、
本製品が国際エネルギースター プログラムの対象製品に関する基
準を満たしていると判断します。



参照 ➔ 省電力設定について 「4章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : QOSMIO G10

Model number : PQG10*

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PQG10* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

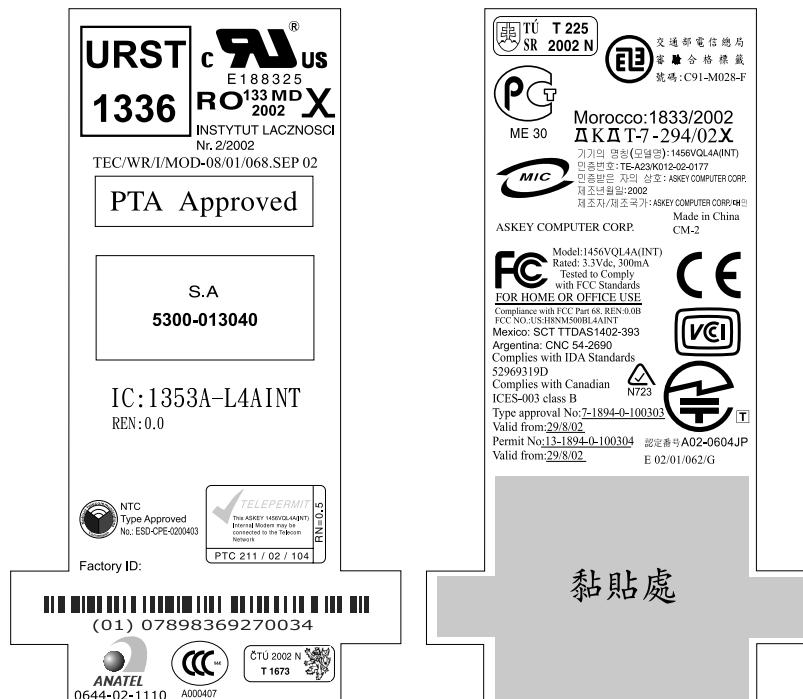
内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A02-0604JP

●回線規格ラベル

本製品の内蔵モデムには、次の回線規格ラベルが貼付しております。



●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、イスス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2004年10月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照 設定について

《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1

ATS133=1

AT&F

AT&W

AT%TE=0

ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

付
録

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATS0=0 (not auto answer)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)

ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

- (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
- (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.

Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-831 (DVDスーパーマルチドライブ DVD+R 2層式メディア対応) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

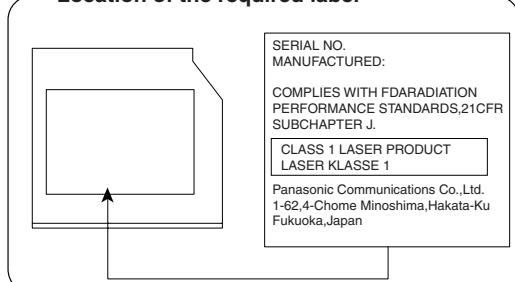
CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通の
レーザ規格 EN60825 で
“クラス 1 レーザー機器” に
分類されています。
レーザー光を直接被爆する
ことを防ぐために、この装
置の筐体を開けないでくだ
さい。

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEOFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSÉ FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÄNLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSS 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



TEAC DVD スーパーマルチドライブ DV-W28E (DVD スーパーマルチドライブ DVD+R 2層式メディア対応) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

△ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通の
レーザ規格 EN60825 で
“クラス 1 レーザー機器” に
分類されています。
レーザー光を直接被爆する
ことを防ぐために、この装
置の筐体を開けないでくだ
さい。

2. 分解および改造をしないで
ください。感電の原因にな
ります。信頼性、安全性、
性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を
使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害お
よび事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損
害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

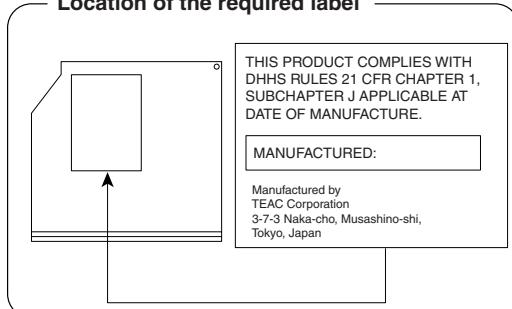
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談
ください。

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

付
録

Location of the required label



5 無線 LAN について

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯または5GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497MHz)
	IEEE802.11a	5GHz (5150-5250MHz)
変調方式	IEEE802.11a、 IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。
- IEEE802.11aに準拠した無線通信は、屋外では使用できません。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯または 5GHz 帯のチャネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャネルセット】

IEEE802.11a (5GHz) の場合

周波数帯域	5150-5250 MHz
チャネルID	
34	5170
38	5190
42	5210
46	5230

IEEE802.11b／IEEE802.11g (2.4GHz) の場合

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462
12	2467 *2
13	2472 *2
14	2484 *2

* 1 購入時に設定されているチャネルです。

* 2 これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、同梱の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- アドホックモードで無線 LAN 接続する場合は、チャネル 10 が使用されます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

電波法により、5GHz 帯無線 LAN の屋外での使用は禁止されています。

【 1. ステッカー 】

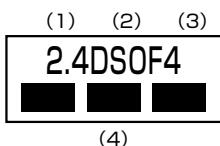
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz 帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」ととの間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【 2. 現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
- OF : 変調方式が OFDM 方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■■■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝 PC ダイヤル】

受付時間 : 9:00～19:00 (年中無休)

ナビダイヤル : 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

(Intel IEEE802.11abg モジュールタイプ)

無線設備名 : WM3B2915ABG

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号 : 003NY04086,
003GZ04044,
003WY04016

(Intel IEEE802.11bg モジュールタイプ)

無線設備名 : WM3B2200BG

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号 : 003NY03120,
D03-0064JPB

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Intel(R) PRO/Wireless 2915ABG Network Connection 製品／Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) ／ Orthognal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision A/B/G) (無線 LAN 標準規格(版数 A/B/G))
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

【 健康への影響 】

Intel(R) PRO/Wireless 2915ABG Network Connection 製品／Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel(R) PRO/Wireless 2915ABG Network Connection 製品／Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

Intel(R) PRO/Wireless 2915ABG Network Connection 製品／Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC) (IEEE802.11b/g モデル)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L 'utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity (IEEE802.11b/g モデル)

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/: For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m.

For registration and license please contact IBPT/BIPT.

Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.

Band de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)(IEEE802.11b/g モデル)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for colocation requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan (IEEE802.11b/g モデル)

- Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.
- Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.
Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

6 Bluetoothについて

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.1.2
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力 ^{*1}	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 ^{*1}	-70dBm
	通信距離	見通し10m ^{*2}
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

付
録

2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

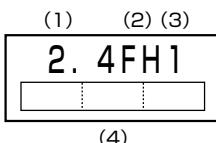
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- (4) [] : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝PC ダイヤル】

受付時間／9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル／0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2CS

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 001NYDA1507

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D04-0411001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.2
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジの Logo 認証

メモ

本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。

ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.2 仕様に準拠しております。

Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジを用いた機器とは互換性がありません。

- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

-
- (3) Bluetooth™とWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth™、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がBluetooth™ワイヤレステクノロジの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中でBluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ワイヤレステクノロジを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU)and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l ' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3232B

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

(The model with embedded wireless LAN module: PA3375U-1MPC)

Relevant transmitters include FCC IDs:CJ6UPA3375WL,CJ6UPA3232BT

(The model with embedded wireless LAN module: PA3362U-1MPC)

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6UPA3362WL, CJ6UPA3232BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

B

Battery LED	161
BIOS セットアップ	181
Bluetooth Manager	121
Bluetooth 機能を使う	118
Bluetoothについて	225

C

CD の取り扱い	91
ConfigFree	116

D

Disk LED	73
DVD の取り扱い	91
D 端子ケーブルの取り付け	132
D 端子ケーブルの取りはずし	137

I

i.LINK 対応機器の取り付け	144
i.LINK 対応機器の取りはずし	144
IEEE1394対応機器の取り付け	144
IEEE1394対応機器の取りはずし	144

L

LAN ケーブルの接続	100
LAN コネクタに関する インジケータ	101

P

PC カードの取り付け	127
PC カードの取りはずし	127

Q

QosmioPlayer	32
QosmioPlayer (CD)	44
QosmioPlayer (DVD)	44
QosmioPlayer (TV)	36
QosmioPlayer	

 転送ユーティリティ

55	
QosmioPlayer の再インストール	50
QosmioPlayer の操作一覧	33
QosmioUI	23

S

SD メモリカードのセット	96
SD メモリカードの取り出し	97
S 端子ケーブルの接続	152
S 端子ケーブルの取り付け	131
S 端子ケーブルの取りはずし	137

T

TFT カラー液晶ディスプレイ	66
-----------------------	----

U

USB 対応機器の取り付け	129
USB 対応機器の取りはずし	130

W

WinDVR	16
--------------	----

X

xD-ピクチャーカードのセット	96
xD-ピクチャーカードの取り出し	97

ア

- アドホックワークグループ 106
アンインストール 177
暗号化 105
アンテナ F 型変換ケーブルの接続 ... 14

イ

- インストール 176
インフラストラクチャ
ネットワーク 107

工

- 液晶ディスプレイの取り扱い 72

オ

- オーディオケーブルの接続 150

力

- 解像度を変更する 67
画面の明るさを調整する 68

キ

- 休止状態 172

コ

- ゴーストリダクション機能 15

サ

- サウンドコントローラ 76

シ

- 使用できる CD 83
使用できる DVD 85
使用できるメディア 80

ス

- スタンバイ 171

ソ

- 増設メモリの取り付け 155
増設メモリの取りはずし 157

テ

- ディザリング 67

ト

- 東芝省電力 169
時計用バッテリ 163

ナ

- 内蔵モデム用
地域選択ユーティリティ 122

ハ

- バックライト用蛍光管 72
バッテリの充電方法 163
バッテリパックの交換 166
バッテリを長持ちさせるには 165
パネルスイッチ機能 174

ヒ

- 光デジタル対応機器の取り付け 146
光デジタル対応機器の取りはずし ... 146
光デジタル対応機器への録音 147
ビデオケーブルの接続 151
ビデオモード 196
表示可能色数 66

フ

- フォーマット (DVD-RAM) 89
 プラグアンドプレイ 125
 ブリッジメディア LED 95
 フロントオペレーションパネル 19

ヘ

- ヘッドホンの接続 149

ホ

- ボリュームコントロール 74
 ボリュームダイヤル 74

マ

- マイクロホンの接続 148
 マルチメディアカードのセット 96
 マルチメディアカードの取り出し 97

ム

- 無線 LAN 103
 無線 LAN について 216

メ

- メモリースティックのセット 96
 メモリースティックの取り出し 97
 メモリ容量の確認 158

モ

- モニタ入力端子 140

ユ

- ユーザパスワードの削除 187
 ユーザパスワードの登録 186
 ユーザパスワードを
 忘れてしまったとき 188

リ

- リモコン 57
 リモコンの各部名称 61
 リモコンの取り扱い 65
 リモコン用電池の取り付け 59
 リモコン用電池の取りはずし 60

□

- 録音レベルの調整 75

< MEMO >

< MEMO >

